

報道記事

令和4年4月～

朝日新聞

北海道新聞

日刊留萌新聞

北海道通信社

日本農業新聞

留萌 宗谷

稚内支局 ☎0162・23・2224
FAX 22・2388
〒097-0005
稚内市大黒1丁目7
枝幸支局 ☎0163・62・2430
FAX 62・1999
〒098-5807
枝幸町本町365
留萌支局 ☎0164・42・2353
FAX 42・5445
〒077-0006
留萌市末広町4丁目10
羽幌支局 ☎0164・62・1313
FAX 62・1788
〒078-4105
羽幌町南5条6丁目7の20
天塩支局 ☎01632・2・1141
FAX 2・2408
〒098-3303
天塩町新栄通6丁目
旭川支社報道 ☎0166・21・2516
FAX 21・2517
販売 ☎ 21・2533
広告 ☎ 21・2539
〒070-8720 旭川市4条通
9丁目旭川北洋ビル

金曜日は、北海道新聞の
生活情報フリーペーパー

道新 ななかぽど

毎週金曜日・約17万2千部発行!

小学生に自転車の旅 ■ 舞台鑑賞幅広く

【苫前】町教委は2022年度の社会教育推進計画をまとめた。苫前商高生が引率する小学生の自転車ツーリング体験や、公演の1環として、ものまねタレントのミラクルひかるさんのライブなど、多彩な事業を予定している。

自転車ツーリングは小坪町への1泊2日の日程で、開催時期は未定。昨年7月に自転車ツーリングを行った苫前商高生がボランティアで同行し、参加児童の指導に当たる。

ミラクルさんのライブは町民有志でつくる「とまま

苫前の社会教育推進計画

え舞台芸術サポーターズとの共催。ミラクルさんは歌手宇多田ヒカルさんのものまねで知られている。開催時期は未定。芸術鑑賞は他に、9月に中学生対象の劇団民話芸術座(東京)の公演「銀河鉄道の夜」、11月に小学生対象の東京合唱協会公演を予定している。

商高生に指導役も期待

7、8月に店舗を借りての営業と、町内のイベントでの出店を予定している。また町教委では同校生に社会教育ボランティアとして活躍してもらう考え。町教委が通年で行う「少年少女体験教室」への参加などを計画している。

その他の新規事業としては、フライングディスクを使って得点を狙うスポーツ「ディスクフレクト」の体験会・大会、公民館のデジタル機材を活用してもらう「コロナ禍におけるオンライン事業」などを盛り込んだ。

(竹内博)

野鳥の観察楽しむ

苫前 少年少女体験教室が開校



苫前町の古丹別緑ヶ丘公園で野鳥を観察する児童たち

【苫前】町教育委員会が主催する町少年少女体験教室（TDK）の開校式・バードウォッチングが、3日午前9時半から町公民館などで開かれた。開校式のあと、児童たちが古丹別緑ヶ丘公園で野鳥観察を楽しんだ。

TDKは、子供たちが社会で自立して生きていくために必要な知識・技能を身に付けるとともに、集団生活の中で自立心や協調性、責任感を培い、心の豊かな人間性を育むことを目的とした、各種体験を実施する事業。小学生を対象に毎年開校しており、今年度は小学1～6年生合わせて25人

が登録している。

この日は児童23人をほじめ、ボランティアスタッフとして苫前商業高校（佐藤恵一校長）の生徒4人も参加した。

同館で行われた開校式では、児童たちがそれぞれ自己紹介。「友達をたくさんつくりたい」、「みんなと仲良くなりたい」など、TDKで頑張りたいことを発表した。

続いて、町教委職員が双眼鏡の使い方をはじめ、同公園ではアカゲラやシジュウカラ、アオサギの野鳥が見られることなどを説明。同館から徒歩で同公園に向かった。

同公園到着後は、双眼鏡で野鳥を観察。大きな鳴き声を上げて飛ぶアオサギの姿に歓声を上げて喜んだ。また、エゾヤマザクラやエゾムラサキツツジ、エゾエンゴサクなど咲き誇る花々を観察しながら、春の森林散策を堪能していた。

TDKは、来年3月まで月1回程度のペースで開催。カヌー体験や炊事遠足、スノーホッケー体験など、児童たちはさまざまな活動を楽しんでいくことになる。

（雪田康一郎）

THE NIKKAN RUMOI SHIMBUN

日刊留萌新聞

令和4年（2022年）5月7日（土）掲載

苫前町が苫前商高の資格取得費支援 頑張る生徒たちの励みに



伊藤会長(左)に苫前商業高校資格取得費支援事業適用拡大についての回答書を手渡す開発教育長

【苫前】苫前商業高等学校の後援会(伊藤正美会長)が、町の同校(佐藤恵一校長、生徒43人)に対する資格取得費支援事業の適用拡大について、3月25日付で町に提出していた要望書に、4月28日に対する回答書が、4月28日町に開発法起教育長から伊藤会長へ手渡された。要望内、希望者を対象にした資格の取得費用の一部助成制度も設けられるなど、支援の拡充が図られた。

3級以上合格者に適用拡大

全額補助を、3級以上合格者に拡大。新たに、就職希望者を対象にした資格の取得費用の一部助成制度も設けられるなど、支援の拡充が図られた。

同事業は平成24年度に開始。これまで、公益財団法人全国商業高等学校協会(全商)主催の検定試験のうち、簿記実務検定やビジネス文書実務検定など7種目で、1級合格者の受験料を全額補助していた。今回の要望受け入れにより、全商主催検定試験の対象種目が財務諸表分析検定など3種目を加え10種目、対象者は3級以上合格者に拡大された。

加えて、公益社団法人全国経理教育協会が主催する検定試験3種目をはじめ、これまで以上に資格取得へ励むことが出来る環境を整

町村版

北から南から

羽幌支局 電話 0164-6215225
FAX 0164-68-9225
天塩支局 〒098-3303 天塩町新栄通10丁目

い、うれしく思う、佐藤校長は「支援の拡大、マチのサポートに感謝したい。パンフレットに記載して、全国募集時にもPRしていく」とそれぞれ話していた。(雪田康一郎)

THE NIKKAN RUMOI SHIMBUN

日刊留萌新聞

令和4年(2022年)5月8日(日)掲載

職業選択に理解深める

苫前商高生 NPOからガイダンス



【苫前】苫前商高は「職業を知るガイダンス」を町スポーツセンターで開き、全校生徒42人が職業選択について理解を深めた。

NPO法人高校生進学支援の会（札幌）の協力で25日に実施した。生徒は、経営やIT技術者、保育など分野ごとの10のブースで、同会の担当者から仕事内容などについて学んだ。写真（苫前町教委提供）。

生徒たちは仕事への疑問や不安などを担当者に質問していた。同校によると、生徒からは「同じ経営といっても職種で幅広いことが分かり、参考になった」な

どの感想が多かったという。

（竹内博）

FMもえる

ハサンデーもえるセレク
ションV民謡・虹色・パ
ブ・マニア・シアハ
ビ・酒もえ・東海園音楽

と明朝の天気

最高気温	最低気温
14・18	9・12
12・20	9・13
14・20	9・13
12・20	7・13
11・17	

北海道新聞 令和4年（2022年）5月29日（土）に掲載

カボチャ 苗植え 農業の現場学ぶ

苫前商高生



カボチャの苗の定植に汗を流す苫前商高の3年生（苫前町教委提供）

2年生（現1年生）が学ぶ地域学の試行事業で、農作物の定植から生育、収穫を経て加工までの流れを、商業の視点から経験すること

が狙い。

定植作業は動画に収録

し、23年度からの地域学に役立てる。
定植は26日に行われた。上田ファームの上田卓司代表が講師を務め、約80坪の畑地に、くりあじカボチャの苗約1700株を2時間かけて植えた。
初夏を思わせる晴天のなか、生徒たちは心地よい汗を流していた。

（竹内博）

◇軟式野球 第49回ライオンズクラブ旗争奪少年大会兼2022 FIGHTERS CHAMPIONSHIP U-12留萌支部予選（29日・羽幌町スポーツ公園野球場）
▽決勝 羽幌フェニックス1-0 天塩タイガース

北海道書道展から4月、「会友」委嘱状が届いた。「次は会員を目指して努力する」と力を込める。

書を始めたのは37年前の1985年。当時、郵便配達の仕事をしており、「年賀状をうまく書きたいと思って市民講座で基本を学んだ」という。

得意にしているのが「墨象」と呼ばれる前衛的な書。「文字をイメージして一瞬で書き上げる。失敗の連続でなかなかうまく書けないが、新しいものを作り

中本 青岳さん(72)
間」磨きたい

北海道新聞 令和4年（2022年）5月31日（火）に掲載

町村版

北から南から

カボチャの苗植え体験

苫前商業高校 新2年生向けに試行事業



上田さんの畑でカボチャの苗植えを体験する
苫前商業高校の3年生

生産現場で農業に親しむ

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長）の地域学習試

事業「カボチャの植栽」が5月26日、上田ファーム株式会社（上田卓司代表取締役）が所有する町昭和地区の畑で行われ、同校3年生11人がカボチャの苗植えを体験。生産現場で農業に親しみながら、マチの特産品について理解を深めた。令和5年度の実施を予定している、新2年生を対象とした農業に関する学習に向けた試行事業。町特産のカボチャなどを生産、自社で加工も行い、道の「北のハイグレード食品」に選ばれた「かぼちゃ団子」などの商品を生産する同社の協力を得て実施した。

この日は、クリアシカボチャの苗1700株を用意。日よけ帽子に軍手長靴姿の生徒たちは、上田代表取締役ら同社従業員のアドバイスを受けながら、苗の植栽にチャレンジ。約8千平方メートルの広大な畑で、70センチ間隔で空けられた穴に苗を植え、両手で優しく包み込むように土をかぶせた。始めは見よう見まねでこちない手つきだった生徒たちも、慣れてくると進んで作業を行い、作業スピードもアップ。晴天の下、さわやかな汗を流していた。終了後、上田代表取締役は生徒たちの頑張りを褒めるとともに「これから、苗は雨をもらい、8月20日ごろに収穫を迎えると思います。楽しみにしていてください」と呼び掛けた。

羽幌支局 電話 078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-625225
天塩支局 098-3303 天塩町新栄通10丁目

今後は収穫などの体験も行う予定で、同校では体験中に撮影した動画を編集し

て同社のPR動画を作成する。生徒を代表して木村蓮汰君が「貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。CMづくりに生かせる動画も撮影できました」と感謝を伝えた。（雪田康一郎）

THE NIKKAN HUIGOI SHIMBUN

日刊留萌新聞

苫前商業高生 職業を知る

自分高め日常大事に

NPO法人の加藤氏講話

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は5月25日、同校などで職業を知るガイダンスを実施した。全校生徒42人が参加。進学や就職に関する講話のほか、職業に関するガイダンスを通して進路意識の向上を図った。



様々な職業に対する理解を深めるほか、適切な職業観・勤労観を養うことによって進路意識の向上を図ることが狙い。NPO法人高校生進学支援の会の加藤勝氏が「なるべく間違いの

ない進路選択をするために」と題して講話した。

加藤氏は進路について

「ミスマッチがないよう多くの仕事を知ってほしい」と呼びかけたほか、進学と

就職のメリットやデメリットについて説明。進学は職

業選択の幅を広げることや高卒よりも収入増が見込め

ること、一方で多く学費がかかることを説いた。進路

選びの重要性に触れ、安易に大学・専門学校を選択しない

ほか、卒業までの資金計画を今から保護者と話すことを求め

た。

就職については社

様々な職業の仕事内容について説明を受けた

会経験が豊富になるほか、

以前と比べて高卒の就職環境が良くなっていることを

説明。就職の心得として健康で自律的な生活をするこ

と、高いコミュニケーション能力を身に付けることなどを求めた。

今後の進路に向けて取り

組むべきこととして「部活動や資格取得など自分を高める」「あいさつや課外活

動など日常生活を大事にする」の2点を挙げた。

このあと、町スポーツセンターでガイダンスを実施した。公務員や保育、観光

など10のブースから生徒たちはそれぞれ興味を持った3つを訪問。それぞれの職

業分野について説明を受けたほか、疑問に思ったことなどを質問した。

北海道通信

昭和50年8月12日第3種郵便物認可
日刊 祝祭日・日曜日・土曜日 休刊

日刊教育版

令和4年（2022年）6月2日（木）掲載

20220604 道北 (留萌・宗谷).

世界に一つの巣箱 高校生と作ったよ

苫前 児童が体験



高校生ボランティアの手を借りて巣箱作りに励む児童（苫前町教委提供）

のスマート農業導入支援に550万円を予定する。また特別委では新型コロナウイルスワクチンの4回目接種についても報告された。60歳以上の高齢者と、基礎疾患のある18～59歳を

対象に7月から集団接種を行い、町勤労青少年ホームを会場に9月中の完了を目指す。天売、焼尻の離島地区は両島の診療所と日程を調整する。

（竹内博）

たことがない児童が多く、高校生ボランティアの手を借りながら巣箱の組み立てに励んでいた。

児童は組み立てた巣箱に、好きな模様や絵などを描き入れ、世界に一つだけの巣箱を完成させた。巣箱は今冬、町古丹別の緑ヶ丘公園内の樹木に掛ける。

（竹内博）

宗谷、留萌両管内
それぞれ3人感染

道は3日、宗谷と留萌の両管内でそれぞれ新たに3人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。累計感染者数は宗谷が1783人、留萌は734人になった。

【苫前】町少年少女体験教室が町公民館で開かれ、町内の児童19人が板材を使った巣箱作りに挑戦した。5月28日に実施した。当日は苫前商業高生のボラン

ティア19人も参加し、児童の工作を手伝った。材料の板材は留萌地区間伐材生産加工協同組合が提供した。のこぎりや金づちを使っ

きのうの最高・最低気温は15時までのアメダスデータ 日本気象協会提供

©北海道新聞社

北海道苫前商業高校

北海道苫前商業高校（苫前町）は本年度から、農業など地域の1次産業や歴史について商業の視点から理解を深める「地域学」の教育課程を新たにスタートさせた。歴史や産業を、商業視点で学べる独自の内容で、地元の問題解決に向けた取り組みを実践させていく。

地域学の課程は、町の歴史を学び郷土愛を深める「とままえ基礎」、農業や漁業を学び、町の1次産業について商業の視点から理解を深める「オロロンデザイン」、企業と連携し、イベントを企画・実現させるノウハウを学ぶ「オロロンデザインII」などからなる。

「商業視点」で農業学ぶ場

「地域学」教育課程スタート

例えば、3年生11人が得て、カボチャの栽培など町内にある上田ファームなどを行う。生育管理、収穫の上田卓司代表の協力を、穫、加工までの流れを収

PR動画やイベント企画



録したPR動画を作成して、広告の方法を学ぶ。今後、地域学を通じて農業や農村、地域の歴史など幅広いテーマを商業の視点で学びを深めていく。小見山佳展教頭は「社会教育に力を入れてきた町で、住民の応援は大きい。地域で育てて学んで、地域を『いいな』と思えるようになることを続けていきたい」と話す。

同校は本年度から、新入生を地元だけでなく全国から募集している。独自の授業で地域内外に高校と町の魅力を発信したい考えた。

上田代表④からカボチャの定植方法を教わる生徒

（北海道苫前町で）



苫前商業高生らと一緒にパドルをこぎ川遊びを楽しむ児童

自然の中わくわくカヌー

苫前で児童向け体験教室

【苫前】初夏の川遊びを楽しむカヌー体験教室（町教委主催）が25日、町内を流れる古丹別川支流の三毛別川で開かれ、町内の小学3年から6年までの児童15人が水辺から地元の自然を堪能した。

参加者は午前と午後の2グループに分かれ、ライフ

ジャケットの装着法やパドルの操作法を学んだ後、カナディアンカヌーに2、3人ずつ分乗し、川にこぎ出した。

町教委職員やボランティアの苫前商業高生らが指導役を務め、児童と一緒にパドルをこいだ。三毛別川に架かる南出橋周辺の約50

0メートルをゆっくりと往復し、水面から飛び立つ水鳥の姿などを観察しながら、楽しい時間を過ごした。

カヌーを初体験した苫前小3年の地島瑠風君（8）は「パドルでこぐのはどきどきしたが、身近に自然が感じられて、わくわくした」と笑顔を見せた。また苫前商高3年の小林香音さん（17）は「地元の子どもと交流できて楽しい」と話していた。

（竹内博）

2022年6月26日（日） 北海道新聞に掲載

自転車の旅楽しんで

苫前商高 自転車ラックを設置



【苫前】苫前商業高校（佐藤 校長）の生徒たちが28日、町役場前のヒグマモニメント「とままたたペアー」付近など町内7カ所に手作りサイクルラックを設置した。

苫前町役場前のヒグマモニメント「とままたたペアー」付近にサイクルラックを設置する苫前商業高校の生徒

は、自転車に乗って町内を訪れる旅行者に旅を楽しんでほしいとの思いから実施した。

設置したサイクルラックは昨年、同校生徒やシーニックパイウェイ北海道・萌える天北オロロンルート運営代表者会議（西大志代表）の会場で製作。高さ約1・5メートル、長さ約1・5メートルで、支柱には「オロロンラインサイクルステーション」の文字と、オリジナルマークをデザインした。

この日は、同校生徒6人が引率の教諭、町教育委員会職員とともにサイクルラック7基を積載した軽トラなどに分乗。町内各所を巡回設置作業を行った。参加者は、町役場を皮切りに町郷土資料館や夕陽ヶ丘オートキャンプ場、コンビニエンスストア、飲食店各2店舗の計7カ所を訪問。そのうち、町役場では同モニメント前に設置。風で倒れないよう支柱の根元には重りを置いた。

サイクルラックは、9月下旬まで設置。回収後に生徒たちがメンテナンスを行う。

同校1年生の粕谷春至君（16）は「サイクルラックは先輩たちが作ったもの。ラックを後世に引き継ぎ、先輩たちの思いを長く伝えていきたい」と話していた。

（雪田康一郎）

THE SHIRASU HUBO SHIMOMU

日刊留萌新聞

苦前商高生 9日にカフェ 授業の成果実践

TOMACAFÉ
IN 上田ファームさん店舗
7/ 9(土) 10:00~15:00
8/27(土) //

テイクアウト・パンは売り切れ次第終了

飲み物の販売
上田ファームさんの
焼きたてパンを販売
上田ファーム
焼きたてパンを販売

北海道苫前商業高等学校・商業部

【苫前】苫前商業高生のカフェ「TOMACAFÉ」写真がチラシが9日前10時から、町内古丹別の上田ファーム店舗で開かれる。生徒が入れたてのコーヒーや同ファームの焼きたてのパンを提供する。

同校卒業生の札幌市のカフェ店長から、ドリップコーヒーの入れ方の指導やコーヒー豆の提供を受け、準備を進めている。

同校では本年度、カフェを計4回開催する予定。同ファームで8月27日にも開くほか、今秋の公民館フェス、来年2月の風揚げ大会での出店を計画している。

カフェの問い合わせは同

2022年7月1日(金) 北海道新聞に掲載

商業科の実践披露 コーヒーなど販売

苫前商業高

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は、9日と8月27日午前10時から苫前町内の上田ファーム店舗でTOMACAFÉを開催する。

メニュー作成や接客マナーなど目ごろ商業科の授業で学んだことを実践するもの。同校卒業生が札幌市内でコーヒー店を経営している縁からコーヒー豆を仕入れたほか、プロ直伝のドリップを学習。コーヒーなどの飲み物や、上田ファームの焼きたてパンを販売する。

2022年7月6日(水) 北海道通信社に掲載

水辺の救命救急 スポーツを学ぶ ボランティア養成研修

【苫前】水辺の救命救急や水泳指導、水上スポーツのSUP（立ちこぎボード）などを学ぶボランティア養成研修が、町B&G海洋センターなどで行われた。

町教委とB&G財団（東京）が主催し、6月26日に実施した。苫前商業高生ら13人が参加し、町教委職員の指導で、救命救命法や水泳指導の補助などを体験した。

SUPの体験は初心者が多く、最初はボードに乗ることも難しかったが、研修が終わる頃には立ってこぐことができる上達ぶりを見



水上スポーツのSUPを体験したボランティア養成研修（苫前町教委提供）

せた。参加した町内の小学校教諭は「水泳の指導法は授業の参考になった」と話していた。

（竹内博）

苫前商高生カフェに行列

上田ファームでコーヒー、パン販売



詰めかけた客に飲み物を手渡す苫前商業高生（手前）

【苫前】苫前商業高生の手作りカフェ「TOMACAFE」が9日、同校のある町内古丹別の上田ファーム店舗で開かれた。生徒が入れたてのコーヒーや同ファームのパンをテイクアウトで販売し、多くの町民でにぎわった。

カフェは昨年11月の公民

館フェスティバルでの出店に続き2度目。店長を務めた3年伊東大輝さん（17）ら1〜3年の10人が、エプロン姿で接客に当たった。開店の午前10時から20人を超す行列ができた。

生徒は、同校卒業生の札幌市内のカフェ店長から指導を受けた深いり豆のコー

ヒーなど、飲み物8種類を提供。町内の主婦秋山道子さん（47）は「昨年のフェスでコーヒーのファンになりました」と話す。伊東さんは「コーヒーとパンのおいしさを味わってもらえた」と手応えを感じていた。

カフェは同ファームで8月27日にも開かれる。

（竹内博）

三毛別事件 ヒグマの怖さ実感

苫前商業高「とままえ学」スタート

【苫前】苫前商業高がカリキュラムに取り入れた地元の歴史や産業を学ぶ地域学「とままえ学」がスタートした。1年生22人は初回の授業で、7人が犠牲となり史上最大の被害として知られる「三毛別ヒグマ事件」の復元地（町内三溪）や、開拓期から昭和30年代までの農機具や漁具などを集めた町郷土資料館を視学した。

（竹内博）

同校は本年度から生徒の校外募集を始めるに当たり、学校の特色づくりとして、歴史を学んだ。

地域学を導入した。最初、生徒たちは三毛別事件復元地を訪れた後、町郷土資料館に移動し、講師を務めた町郷土研究会会長の伊藤さん（大正4年）に起こった三毛別事件の歴史を学んだ。



郷土資料館に展示されたヒグマの複製を前に伊藤通康さんの解説に耳を傾ける苫前商業高生

農漁業の変遷もたどる「知らないこと学べた」

伊藤さん（71）の解説に耳を傾けた。伊藤さんは体重340kgのヒグマが開拓民を襲った惨劇の様子を説明し、「ヒグマは人間が心臓を狙わないと仕留められない」と、野生生物の怖さを紹介した。

資料館では、水揚げしたニシンを煮て煮る際に使った直径1・4m、深さ60cmの鉄釜や、足踏み式の脱穀機などの収蔵物を見学し、地元の産業に理解を深めた。また、伊藤さんは、戸長役場が置かれた1880年（明治13年）以降の開拓の歴史と、農漁業や酪農の変遷をたどる講義も行った。

講義では、ニシン漁の盛衰から栽培漁業への変化や、ドローンや衛星利用測位システム（GPS）を使ったスマート農業への取り組み、搾乳ロボットの導入や経営規模の拡大が進む酪農など、苫前の基幹産業の概況が説明された。

伊藤さんは「駆け足の授業になったが、苫前の歴史に触れてもらう機会になった」と話し、西村陽名さん（15）は「となりまちの小平町出身ですが、意外と知らないことが多く、勉強になりました」と最初の授業を振り返った。

©北海道新聞社

道内地方高校の現実
 北海道の公立高校では新入生の入学が2年連続10人未満となると募集停止、ゆくゆくは統廃合の対象校となる
 ことがあります。そのため多くの地方高校では、生徒数の確保のため特色ある学校づくりが進められています。苫前商業高校（通称・苫商）もそのような高校のひとつです。

220キロ真夏の自転車旅

令和3年度、新入生7名。崖っぶちの苫商を存続させるためにできること——在校生たちは220キロ、2泊3日の道北自転車旅行を自ら企画しました。道内各地から集まった彼らにとって、実は留萌地域は未開の地。学校を飛び出し、自力で留萌地域を体感する行事を学校の特色と伝統にしたい！という強い思い

を原動力に自転車道を漕ぎ進めます。スポーツバイクの爽快感、地平線に見える天売・焼尻島、手を振ってくれるサイクリスト、道内で一番暑かった炎天下の留萌、励まし合って登った坂道……すべてが初めての体験。彼らの真夏の挑戦は全行程最高標高の霧立峠②でハイライトを迎え、9名のサイクリストが親御さんの待つ学び舎に堂々と帰ってきました。2泊3日の行程は地図をご覧ください。真夏の留萌で、彼らの挑戦を追体験するドライブを是非！

前年比3倍超の出願!!
 彼らのひと夏の挑戦は、さっそく実を



苫前商業高校 ひと夏の挑戦

新入生募集停止の黄色信号が
 灯る地方高校。自らの学び舎を
 守るために、在校生たちが奮起！
 彼らのひと夏の挑戦に同行しました。



私たちがご紹介します
 文/小西 信義・米倉 礼子



難所を制覇した達成感



2泊3日の自転車旅で速くなった
 苫商生

(44km・55分)⇒道の駅のまい 屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」①(休憩:30分)⇒③(50km・1時間10分)⇒
 上田ファーム直売・加工場④(かぼちゃ団子購入(11~3月のみ):15分)

22

DRIVE & 立ち寄り情報



苫商生にかぼちゃの育て方を教える卓司さん(左)。
 「かぼちゃ団子」は、北のハイグレード食品に認定！
 ネットでも購入できます！(右)



子ども達に人気の遊戯ひろば(左)。
 るもいのキャラクター-KAZUMOちゃんが目印(右)

道の駅のまい

屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」①

アンテナショップやカフェも併設した、誰もがくろろげる新たな交流拠点が道の駅のまいにこの春オープン。クラフティングウォールや木製バンク、大型ブロックなどで思いっきり遊んでみませんか。

① 留萌市船場町2丁目114 ①0164-56-0870
 ② 9:00~17:00(カフェは10:00~17:00)
 ③ 年末年始(12/31~1/5) ④ 遊戯ひろば100円
 /子供1名 ⑤ 416 393 069

オロロンライン・サイクリスト・応援カーも バージョンアップで挑戦者を応援します！



私はサイクリストを応援します！(上)もしものときの
 力になれるように、「自転車御守」を作りました(右)

「サイクリスト応援ステッカー」を貼っている
 黄色の道路/サイクルカーに、自転車
 用の空気入れと工具を搭載。道中困
 ったときはお声がけください。今年から応
 援カーの利用方法を記した「自転車御
 守」を管内道の駅などで頒布します！

①0164-62-1816(購入の天北オロロン
 ライン運営委員会(株式会社道北土
 木内)) ②9:00~17:00 ③土・日曜
 日、祝日 ④無料



結びます。なんと、今年度の入学者は昨
 年度の3倍超の23名に！新入生募集
 停止の信号も青色に変わり、自信に満ち
 た在校生たちは新入生たちと地域を盛
 り上げるためにいろいろなアイデアを形
 にしています。8月27日には上田ファーム

直売・加工場④にてその日限
 りの「高校生カフェ」を開店予
 定。彼らの挑戦はまだ続き
 ます！がんばれ苫商！

札幌駅⇒⑤・⑥(道央自動車道(札幌北IC~深川JCT))・⑦(23・⑧(199km・2時間50分)⇒苫前商業高校【苫商自転車旅スタート】⇒⑨(36・⑩(0.5km・2分)⇒
 宿治(深川市)⇒⑪(26・⑫(59km・1時間5分)⇒宿治(幌加内町政和)⇒⑬(27・⑭(17km・20分)⇒霧立峠②⇒⑮(41km・55分)⇒苫前商業高校【苫商自転車旅ゴール】⇒⑯(36・⑰(0.5km・2分)⇒

パークゴルフで交流

【吉前】吉前商業高等学校 和やかにプレー

【吉前】吉前商業高等学校 和やかにプレー
吉前商業高等学校（伊藤正美校長）の生徒と、同校後援会（伊藤正美会長）の共催で、毎年開催の令和4年度交流パークゴルフ大会が、6日午前9時から古丹別リバーサイドパークゴルフ場で開かれた。伊藤会長が「地域のひとと、吉前商業高校（佐藤校長）の生徒と今後交流の新たな交流があると思います。今日はたくさん楽しみましょう」とあいさつ。ルール説明のあと、吉前町高校生と後援会の交流事業として、町商工会（渡部）のイメージキャラクター（雪田康一郎）



古丹別リバーサイドパークゴルフ場で開かれた吉前商業高等学校交流パークゴルフ大会

「くまだとまお」による始球式、とまお君を囲んで参加者全員で記念撮影が行われた。

終了後、参加者は4人ずつでグループを作り、南北コースに分かれてプレー。18ホールをラウンドした。

交流が目的で勝敗は二の次とあって、生徒と後援会員が会話を弾ませながら和やかにプレーを楽しみ、クラブを手に快音を響かせていた。（雪田康一郎）

令和4年（2022年）7月12日（火）掲載

高校生が接客に大忙し

【吉前】吉前商業高校「TOMACAFE」盛況

【吉前】吉前商業高校（佐藤恵一校長）の高校生カフエ「TOMACAFE」が9日、町字古丹別の上田フアーム株式会社（上田卓司代表取締役）の店舗兼加工場で開かれ、地域住民らでにぎわった。

TOMACAFEは、同校生徒がメニュー内容の決定や提供業者への交渉、接客マナーなど、日ごろの授業で学んでいることを実践する場。今年は、町内でカボチャなどの農産物を製造、加工、販売を行う同社の協力を得て実施。農作業の繁忙期には開店しない同店舗で、特別に焼きたてパンを提供してもらう形で実現した。

この日は同校生徒10人が接客を担当。新型コロナウイルス

TOMACAFE来店者のおまかせ注文に対応してお勧めのパンを見繕う吉前商業高校の生徒



イルス感染症防止対策として、来店者にマスク着用を呼び掛けたほか、店舗前に待機場所としてテントを設け、入店人数の制限を行うなど、密集状態にならないよう配慮した。

同校生徒が札幌市内のカフェで働く卒業生から、動員を通じて入れ方を学んだ。メニューははじめ、8種類のドリンクのほか小粒スイーツ、トバトパイ、明太子デトパン、ミニクロワッサン、林檎クリームデニッシュなど、9種類の焼きたてパンを販売。

午前10時の開店前から、約20人の地域住民らが列をつくる人気ぶり。生徒たちは大忙しながらも来店客に「いらっしゃいませ」と元気に声を掛け、丁寧に接客。全種類のパンを購入したり、生徒におまかせ注文する来店者の姿も見られた。

盛況ぶりを見守っていた佐藤校長は「生徒たちの頑張りを、地域住民の皆さんから応援してもらい、大変うれしく思う」と話していた。

TOMACAFEは、8月27日にも午前10時から同店舗で開かれる。（雪田康一郎）

THE NIKKAN RUMOI SHIMBUN

日刊留萌新聞

人単にはる伊藤心珠さん（古丹別3年）、丹羽陽詩さん（同同）の合わせて9人。生徒たちは「一球入魂で頑張りたいです」、「1回でも多く勝ちたいと思います」などと一人一人抱負を語り、健闘を誓った。

福士町長は「それぞれの種目で、全国を目指して頑張ってください」、開発教育長は「自分の力を存分に発揮し、良い報告を待っています」と、全道大会に出場する生徒たちにエールを送った。（雪田康一郎）

16、17日に「苫商祭」

苫前商業
高校 今年もあんどん行列実施

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長、生徒42人）の第56回苫商祭は16、17の両日、同校などで開かれる。あんどん行列を実施。途



16、17日に開かれる第56回苫商祭をPRする苫前商業高校の生徒

中、町公民館前で初となるYOSAKOIソーラン舞を披露する予定で、生徒たちはあんどん製作などの準備を熱心に進めている。今回のテーマは「百花繚乱The Best Memory」。あんどん

行列に使うあんどんは、4面それぞれイラストを描いた布を貼り付ける灯籠型。昨年、21年ぶりに復活した際の土台を引き継いだもので、高さ2・5メートル、幅、奥行きは各2メートル。

さらに今年は、地元青年らで構成する「未来ビジョンミーティング」のメンバーが、同校学校祭支援の一環として灯籠型のあんどん1基を製作中。同校生徒が製作した1基と合わせて2基のあんどんが古丹別市街地を練り歩く。

16日は午後6時半から開祭式を行ったあと、2基のあんどんが同7時に同校を出発。セイコーマート古丹別店、有限会社松田板金工業所、JAるもい苫前支所、町公民館、古丹別郵便局などを巡り、1時間半ほどを

かけて、同校に戻る約3キロのコースを巡行する。

途中立ち寄る町公民館で、同7時40分ごろからYOSAKOIソーラン舞を披露。同校初の取り組みで、苫商祭実行委員長の小林香音さん（3年）は「新たな伝統の一つとなるよう生徒全員で頑張りたい」と意気込む。

本祭となる17日は、午前10時から同校校舎内、各教室で模擬店を行うほか、生徒たちによるダンスや劇のクラスパフォーマンスを披露する。

「未来ビジョンミーティング」メンバーによる射的やモグラたたきなどの縁日コーナー、フリーマーケットも行われる予定となっている。

（雪田康一郎）

あす、17日「苦商祭」

あんどん行列にYOSAKOI盛り込む

【苦前】苦前商業高の学校祭「苦商祭」が16、17の両日、同校などで開かれる。昨年の学校祭で21年ぶりに復活した目玉行事のあんどん行列には、行進の合間にYOSAKOIソーラン踊りを組み込む新しい企画を盛り込んだ。

あんどん行列は16日午後7時に同校をスタートし、学校のあまた住民団体「未来ビジョンミーティング」も同じような山組んだ2・5層四方の台座に高さ3層のあんどんを付けた山車1基と、あんどんの四方に貼るイラスト4枚の制作に取り組む。

生徒は今月初めから、角材で組んだ2・5層四方の台座に高さ3層のあんどんを付けた山車1基と、あんどんの四方に貼るイラスト4枚の制作に取り組む。



制作中の山車の前で「苦商祭」への来場を呼び掛ける小林香音さん（右）と伊東大輝さん

「百花繚乱」テーマ

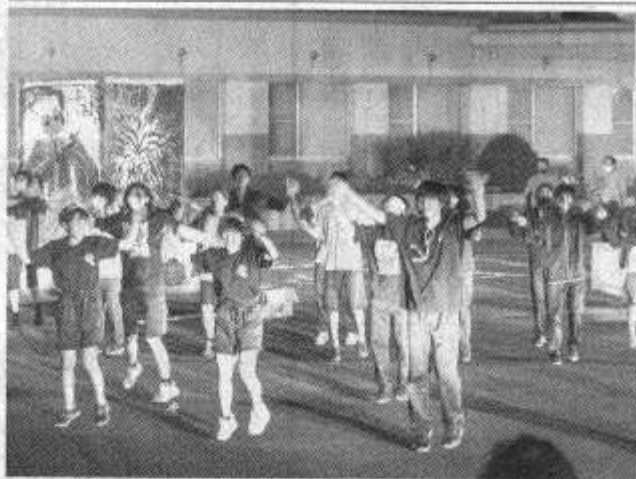
車1基を制作。引き手に古丹別中生を加えて行進し、地域のイベントとして盛り上げる。

新企画は生徒によるYOSAKOIソーラン踊り。行進の途中に休憩に立ち寄る町公民館前で、息の合った踊りを披露する。

実行委員長で3年の小林香音さん（17）は「学校祭のテーマは『百花繚乱』。43人の生徒一人一人の個性が咲き乱れるような元気を、あんどんや踊りで表現できたら」と話す。あんどんに貼るイラストを担当する3年の伊東大輝さん（17）は「生徒全員からアイデアを募り、和風のイメージで描いている」という。17日は午前10時～午後3時に、校舎内で模擬店やフリーマーケット、縁日などを行う。

（竹内博）

地域住民を楽しませた苫前商業高校生徒によるYOSAKOIソーラン演舞



古丹別市街地を練り歩いた苫前商業高校の生徒らによるあんどん行列



あんどんが市街地練り歩く

苫商祭 縁日コーナーなど盛況

【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長、生徒42人)の「第56回苫商祭」が16、17の両日、同校などで開かれた。16日のあんどん行列で幕を

演舞などが地域住民らを楽しませた。

今回のテーマは「百花繚乱」The Best Memory。16日のあ

んどん行列では昨年、21年ぶりに復活した際の土台を引き継ぎ生徒たちが製作した灯籠型あんどんに加え

て、地元青年らで構成する「未来ビジョンミーティング」メンバーが苫商祭支援

の一環として初めて製作したあんどんの合わせて2基が、午後7時に同校を出発。セイコーマート古丹別店、有限会社松田板金工業所、JAるもい苫前支所、

町公民館、古丹別郵便局などを巡り、1時間半ほどで同校に戻る約3キロのコースを巡行した。

途中立ち寄った町公民館では、同8時ごろからYOSAKOIソーラン演舞を披露。鳴子を手に、大きな掛け声を上げながら練習の成果を発揮して踊る生徒たちに、見守る父母らから大きな拍手が送られた。

本祭となる17日は、午前10時から同校校舎内各教室の模擬店で、フライドポテトやチョコバナナを販売。射的やもぐらたたきのゲームコーナーなども設けられ、保護者と一緒に訪れた浴衣姿の子供たちでにぎわった。

このほか、同校体育館では生徒たちによるダンスや劇のクラスパフォーマンスが披露され、来校者を楽しませた。

(雪田康一郎)

THE NIKKAN HUPPO SHIMAMU

日刊留萌新聞

令和4年(2022年)7月22日(金)掲載

留萌 宗谷

稚内支局 0162・23・2224
FAX22・2388

〒097-0005
稚内市大黒1丁目7
枝幸支局 0163・62・2430
FAX62・1999

〒098-5807
枝幸町本町365
留萌支局 0164・42・2353
FAX42・5445

〒077-0006
留萌市末広町4丁目10
羽幌支局 0164・62・1313
FAX62・1788

〒078-4105
羽幌町南5条6丁目7の20
天塩支局 01632・2・1141
FAX2・2408

〒098-3303
天塩町新栄通6丁目
旭川支社報道 0166・21・2516
FAX21・2517

販売 21・2533
広告 21・2539
〒070-8720 旭川市4条通
9丁目旭川北洋ビル

金曜日は、北海道新聞の
生活情報フリーペーパー

道新 ななかまど

毎週金曜日・約17万2千部発行!

自転車ツーリング出発

苫前商高生 往復205キロの旅

【苫前】苫前商業高生9人が26日、往復205キロを走る自転車ツーリングに出発した。生徒は28日までの2泊3日の行程で、日本海沿いのオロロンライン(国道232号)を北上し、宗谷管内幌延町までの沿線6町村を駆け抜ける。

ツーリングは昨年、学校の新たな伝統行事づくりとして始まった。今年も同校と町教委が、留萌管内のまちおこし団体や北海道開発技術センター(札幌)の協



力で実施した。地域や学校の魅力をインスタグラムで発信する狙いもある。生徒会長の森井柚稀さん

町村版 北から南から

今年も自転車ツーリング事業

2泊3日で銀輪の旅

苫前商高 生徒ら 関係者の激励受け出発



2泊3日の自転車旅へ出発する苫前商業高校の生徒たち

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長）、町教育委員

会共催の自転車ツーリング事業が26日、スタートした。同校生徒9人が引率の教諭や町教委職員らとともに、同校を発着点に、天塩町や宗谷管内幌延町など総延長約205キロを巡る2泊3日の自転車旅へ出発した。

同事業は、同校生徒自らが行程やツアー内容を考え実践することで、生徒同士の連帯感や自己有用感を高めるとともに、同校の魅力をPRし、存続の一助とすることを目的に、昨年に続いて実施。一般社団法人北海道開発技術センター（札幌市）、シーニックバイウエイ北海道・萌える天北オロロンルート運営代表者会議（西大志代表）が協力し

て行われた。

生徒たちは2年目の事業成功に向け、ルートなどについて協議を重ねたほか、6月30日から「学校存続を掛けた自転車ツーリング」と銘打ったクラウドファンディング（CF）を実施。自転車やヘルメットのレンタル料金、サポートカーの燃料費などの支援を求め、7月25日までの募集期間中、75人から目標額10万円を大幅に超える27万3千円の支援金が集まった。

26日は、午前9時半から生徒玄関前で出発式が行われた。「先走めざして頑張る」などのメッセージが書かれた横断幕が張られた玄関前で、佐藤校長は「クラウドファンディングが道内だけでなく道外からも多くの支援をいただき、目標の3倍近くなったことは注目の表れ。広く苫前商業、苫前町、協力団体の名を知ってもらつたため、安全なツーリングを心掛け、楽しい3日間にしてほしい」と述べ、福士敦朗町長は「皆

さんのこれからの学校生活、これから的人生にとつて大きなプラスとなるだけでなく、高校を盛り上げる取り組みです。205キロを完走できるよう頑張ってください」と激励した。

生徒を代表し、3年生の森井柚稀さん（17）が「クラウドファンディングをはじめ、私たちの事業は皆さんの支援あってのもの。苫前町と西商の魅力を広められるよう頑張ります」と意気込みを語った。

続いて、記念品贈呈として協賛企業の北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社・札幌市）と、株式会社道北土木（本社・羽幌町、森本勝己社長）から冷たい清涼飲料水、同会議から「自転車御守り」がそれぞれ参加者に贈られた。

生徒たちは、佐藤校長や多くの支援者に見送られ、同日9時40分に同校前をスタート。美しい海岸線の景色を堪能しながら、オロロンラインを北上。途中、はばるバラ園や道の駅「☆ロマン

羽幌支局 電話 078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-6215225
天塩支局 0164-6819225
〒098-3303 天塩町新栄通10丁目

な観望を堪能した。午後5時ごろには、1日目の目的地である釧路湾公園に到着。夕食にバーベキューを楽しみ、てしお温泉「夕映」で入浴。パンガローで宿泊した。

27日は、高さ約100メートルの風車群が約3キロにわたって並ぶ宗谷管内幌延町のオトンルイ風力発電所や天塩町の半野牧場を巡り、道別の旭温泉で入浴、宿泊する。

28日の午後2時半をめどに同校に戻る予定となっている。

（雪田康一郎）

THE NIKKAN RUMOI SHIMBUN

日刊留萌新聞



総延長約205kmの自転車旅を終えて苫前商業高校に無事到着した生徒たち

総延長205kmの銀輪旅 無事完走して母校へ到着

苫前商業高校(佐藤憲一校長)・町教育委員会共催の自転車ツーリング事業で26日から天塩町や赤谷管内幌延町など総延長約205kmを巡った同校生徒9人が、引率の教師や町教委職員らと共に28日、ゴール地点である同校に到着。閉会式では、生徒一人一人が3日間の思い出や事業支援に対する感謝を語った。

同事業は、同校生徒自身が行程やツアー内容を考え、実践することで生徒同士の連帯感や自己有用感を高めることを加え、同校の魅力やPRし、高校存続の一助とすることを目的に、昨年に続いて実施。一般社団法人北海道開発技術センター(札幌市)・シニックバイウェイ北海道・明える天北オロロンル

町の宇野牧場へ到着し、オロロン牛乳を使ったソフトクリームなどに舌鼓を打ち、遠別町の旭温泉で入浴、宿泊。28日は、午前8時半ごろに旭温泉を出発。オロロンラインを南下し、午後2時半ごろに同校へ到着。「お帰りなさい!」や「先走おめでとう!」などのメッセージが書かれた垂れ幕が設置された同校前では、佐藤校長や地域住民ら約20人が生徒たちを出迎えた。

閉会式では、生徒一人一人が「最後まで完走できて良かった。坂道がつかないこともあったが、良い思い出になった。」「旅を通して、色んな大人の人と関わりを持つことができたことは、自らの成長につながった。」「など旅の思い出や支援に対する感謝を述べ、大きな拍手が贈られた。佐藤校長は「どんなつらい坂道があっても、逃げずにやり切ることが大切なこと。たくさんサポートの皆さんのおかげで、人のためになることができた。模範となるような人間になってほしい」と生徒たちに呼び掛けた。

(菅田康一郎)

苫前の産品買って応援 初の販売促進会にぎわう

【苫前】コロナ禍でPR機会のない地元産品の消費拡大を図る初の販売促進会「とままえマルシェ」(町観光協会など主催)が7月30日、町役場駐車場で行われた。野菜や果物、海産物などを自営に、会場は多くの町民でにぎわった。マルシェはコロナ禍で中止になった「風車まつり」などの代替イベントとして、町の支援で企画された。るもい農協と北るもい漁協の各店前支所や、農水産加工業者など9事業者が出店したほか、苫前商業校生が考案した焼き菓子なども販売された。



メロンやトウモロコシなどの地元産品を販売した「とままえマルシェ」

を禁止するなど、感染防止対策を徹底した。

メロンやトウモロコシ、タコや甘エビなど新鮮な地

元食材が、道内は無料、道外が500円で発送できることも人気を呼んだ。町内の50代主婦は「朝から並んで、メロンや煮タコを本州や道内の親戚に送りました」と話していた。

(松葉師正通信員)

留萌 宗谷

稚内支局	0162・23・2224
枝幸支局	0163・62・2430
留萌支局	0164・42・2353
羽幌支局	0164・62・1313
天塩支局	01632・2・1141
旭川支社	
▷報道	0166・21・2516
▷販売	21・2533
▷広告	21・2539
▷事業	21・2555

金曜日は、北海道新聞の
生活情報フリーペーパー

道新 **ななかぽど**

毎週金曜日・約17万2千部発行!

日本農業新聞

2022年(令和4年)

8 2

火曜日

北海道
HOKKAIDO

地元トマト農家手助け

苫前商高の6人週末にアルバイト

留萌管内苫前町のト・苫前商業高校の生徒
いる。今年6月から
マト農家の下で、地元が農作業に汗を流して始めた。地域でアルパイト先を求める高校生
が、農家の人手不足の
一助となっている。
同町の花井秀昭さん
(62)の農場では、ハ
ウスで栽培するトマト
収穫の繁忙期を迎えている。数年前に同校の
校長から「生徒がアル
バイト先を探してい
る」と相談を受け、
「週末なら」と昨年か
ら生徒を受け入れ始め
た。の1年生5人と2年生
1人の計6人。週末に
農場へ通い、収穫作業
などを行っている。
札幌市の川上菜柚希
さん(16)は「農作業
をやっていたら、だん
だん楽しくなってきた」と笑顔で話す。大
阪府の北田梨花子さん
(16)は「農作業は初
めて」ながら、「トマト
収穫を丁寧になし
た。同校は本年度より、
生徒を全国から募集し
ている。今年花井さん
の下で働く生徒は、札
幌市、苫前町、上川管
内東川町、大阪府出身
の1次産業につ
いて商業の視
点から理解を
深める地元学
を導入してい
る。花井さん
は「農業アル
バイトでも学
びを提供でき
る。農繁期の
アルバイトは
とても助かっ
ている」と話
した。花井さんの指導を受け収穫する
生徒 (苫前町で)

苫前商業高3年 木村 蓮汰さん(17)

日商簿記3級、励みに

6月に行われた日本商工会議所(日商)簿記検定3級に合格した。2年で全国商業高校協会(全商)の簿記2級を取得し、今春から日商合格を目指して勉強に励んだ。

「日商は読解力を試される長文の設問が多くて難しかった。国語はあまり得意ではありません」と

受験を振り返り、「正直なところ落ちると思っていた。意外な結果で驚きました」と想定外の吉報に戸惑う。

地元の苫前町出身。2年生では自転車ツーリングへの参加や、同高が企画し運営した手作りカフェの店長を務めるなど、全校生徒のけん引役として活躍した。

将来は道内の企業に就職しマネジメント(経営管理)業務を行うことが夢だという。現在は志望校の小樽商大を目指して、受験勉強の毎日だ。「日商簿記2級に挑戦したいですが、大学進学後までお預けです」とほほえむ。

(竹内博)



高難度の日商簿記3級合格

苫前商業高校3年の木村君

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長）3年生の木村蓮汰君（17）が、6月に行われた日本商工会議所（日商）の簿記検定で3級に合格した。公益財団法人全国

同校は、生徒が進学や就職に有利なように資格取得を奨励。検定試験に備えて補習を行うなど指導に力を入れている。

簿記検定には、それぞれ主催団体別に、全国経理教育協会（全経）と全商、日商の3種類があり、そのうち日商簿記は、全経、全商

と比べて難易度が高くなっている。

昨年1月に、2度目の挑戦で全商の2級に合格している木村君。大学受験へ向けた勉強の傍ら、資格取得に3週間ほど前から集中的に準備を進めてきた。

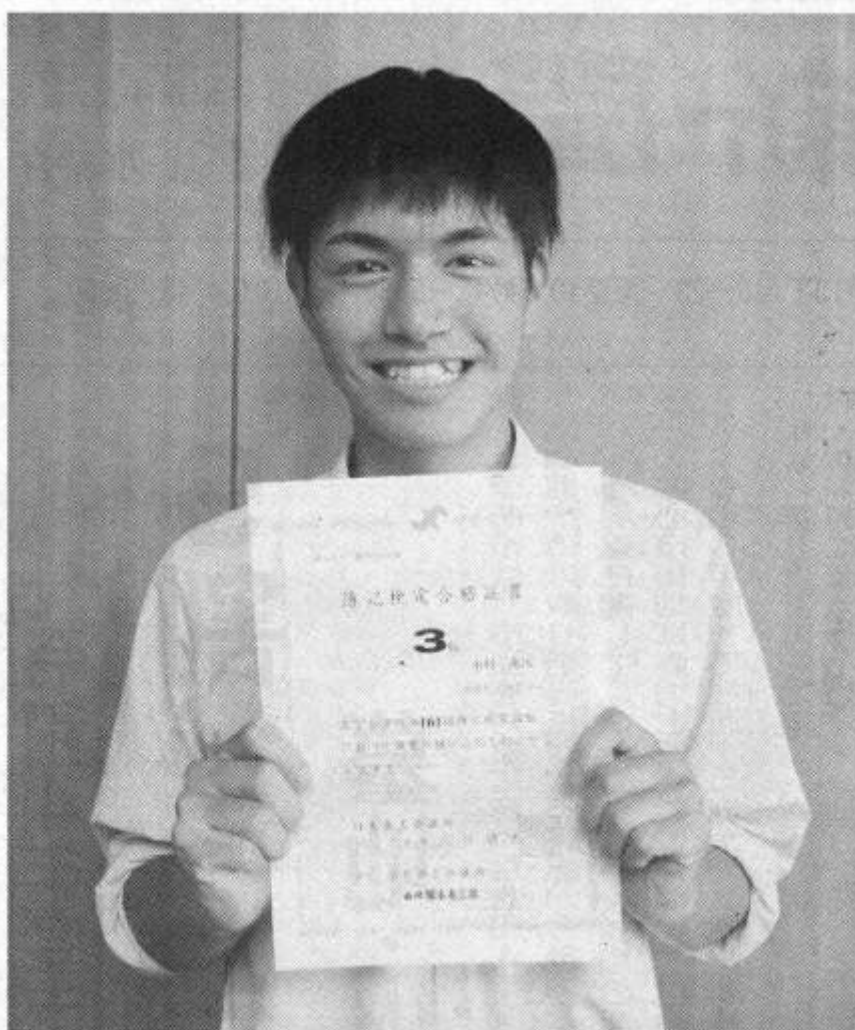
木村君は「対策を進めてきた問題と、違う問題が出題されダメかと思った」と振り返るが、諦めず問題に取り組み初挑戦で合格を果たした。

「これから大学進学への準備を頑張り、進学後に日商2級に挑戦したい」と意欲を見せる木村君は、合格証書を手に笑顔を見せていた。（雪田康一郎）

幸せに生きる

増毛町の図書館

【増毛】町教育委員会が開設する暑寒大学の教養講座「読書く幸せに生きるた



日本商工会議所簿記検定3級の合格証書を手にする苫前商業高校3年の木村君

町民ら6000人でにぎわう

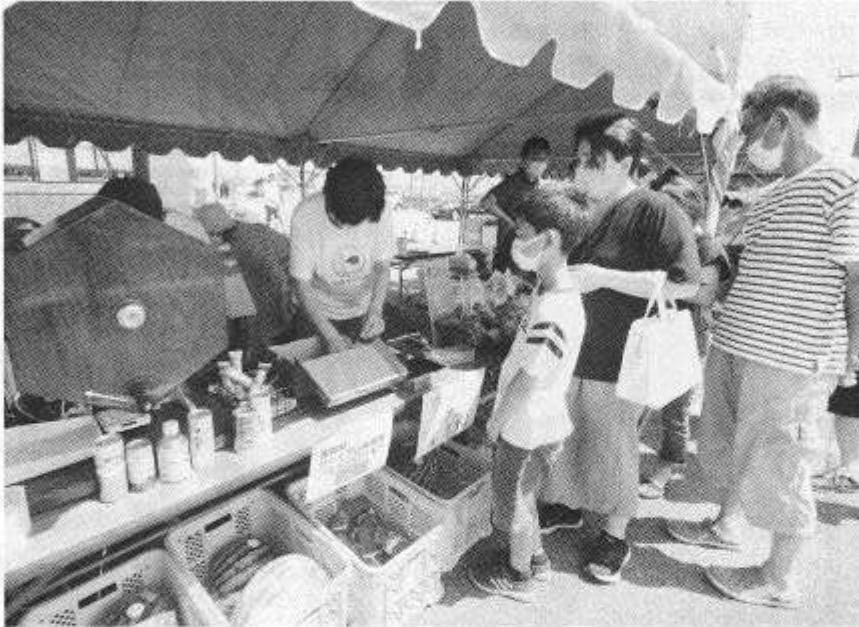
とままえ
マルシェ 地場産品の魅力再認識

【苫前】町観光協会（渡部和人会長）主催の地元産品販売促進会「とままえマルシェ」が7月30日、町役

場の駐車場で開かれた。訪れた約6000人（主催者発表）の町民らが町内産の農水産物を買求め、地場産品の魅力を再認識したほか購入品を町外に住む家族や知人に送り、地域の魅力をPRした。

同イベントは、町が地域内消費を喚起するとともに地域住民に地場産品の良さを再認識してもらおうと、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した、町独自

苫前町産の農水産物を買求め、町民らでにぎわったとままえマルシェ



主催者として初めて開かれた。

開催趣旨に合わせて町外へのPRは控え、事前告知は町内各世帯への回覧、新聞折り込みのみとしたほ

か、来場者にはマスク着用や手指消毒、入場時の検温に対する協力を呼び掛けるなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じた。

この日は、るもい農業協同組合と北るもい漁業協同組合の両苫前支所など計9事業所が出店。メロンやスイートコーン、ミニトマト、ゆでミズナ、ニシンの切り込み、ハッカクの煎製、焼きたてパン、チーズケーキパイなど、計約80品目を販売。このほか、同協会の販売ブースでは苫前商業高校の生徒が町内産力ポチャを使ったマドレーヌ「カボレーヌ」などの同校生徒開発商品を販売。

午前10時の販売開始前から約100人が列をつくる盛況ぶり。各販売ブースでは正午前に売り切れる商品が続出。1人でメロン30個を購入する来場者の姿も見られた。

また、会場には販売ブースのほか、地場産品の良さを広く知ってもらうため、ヤマト運輸株式会社（本社・東京都）の協力を得て地方発送コーナーを設置。町が発送費用を助成し、道内は無料、道外も500円で発送可能としたこともあり、多くの来場者が利用していた。

また、初開催イベントの応援に苫前町のイメージキャラクター「くまだ」と「道警のマスコットキャラクター」「ほくとくん」も駆け付け、来場した子供たちと触れ合うなど地域おこしのイベントを盛り上げていた。

（雪田康一郎）

駐車場舗装な

苫前建設会

【苫前】町は7月27日、

THE NIKKAN RUMOI SHIMBUN

日刊留萌新聞

令和4年（2022年）8月4日（木）掲載

TOMACAFEにぎわう

苫前 羽幌署と交通安全啓発も

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長）の高校生カフェ「TOMACAFE」が8月27日、町字古丹別の上田ファーム株式会社（上田卓司代表取締役）店舗兼加工場で開かれ、焼きたてパンなどを買い求める地域住民らでにぎわった。

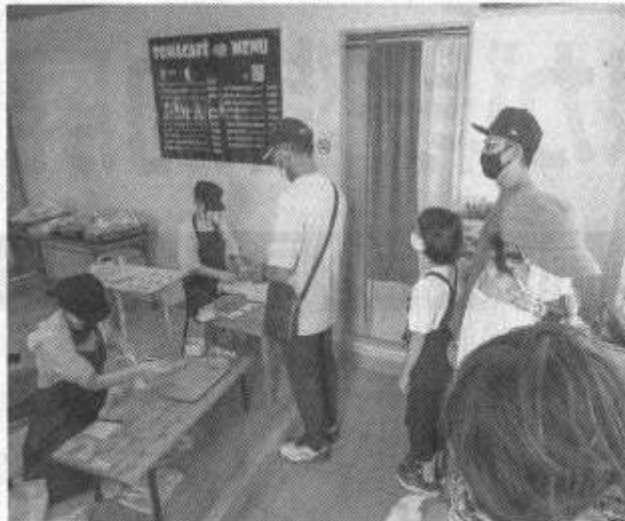
「TOMACAFE」は同校生徒がメニュー内容の決定と提供業者への交渉、接客マナーなど、日ごろの授業で学んでいることを実践する場。

今年は、町内で力ボチャなどの農産物を製造、加工、販売する同社の協力を得て実施。農作業の繁忙期には開店しない同店舗で、特別に焼きたてパンを提供してもらう形で実現した。

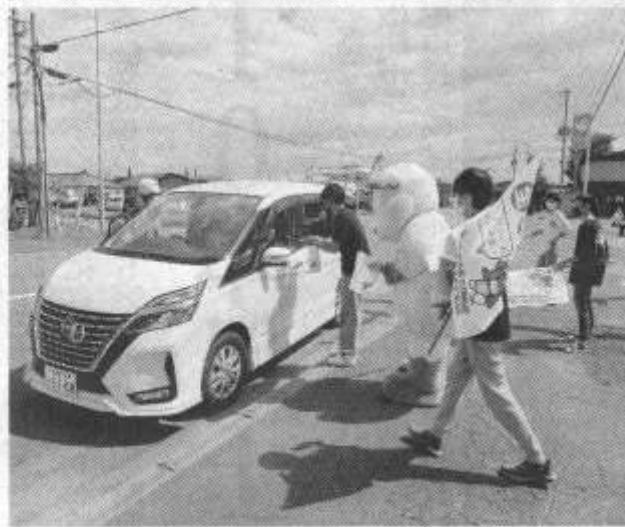
7月9日に続き2回目の開催となるこの日は、同校の生徒12人が参加。新型コロナウイルス感染症防止対

策として、来店者にはマスク着用を呼び掛けたほか、店舗前に待機場所としてテントを設置し、入店人数の制限を行うなど密集状態にならないよう配慮した。店内では、札幌市内のカフェで働く卒業生から入

方を学んだコーヒーなど10種類のドリンクをはじめ、ミニクロワッサン、カレーデニッシュ、チーズタルトなど9種類の焼きたてパンを販売。接客や調理に頑張る生徒たちを応援しようと、1



上田ファーム株式会社店舗兼加工場で開かれた苫前商業高校の高校生カフェ「TOMACAFE」



苫前商業高校の高校生カフェ開催に併せて羽幌警察署と合同で行われた交通安全啓発活動

カフェで販売した飲み物のボトルに「飲酒運転撲滅」の文字をデザインしたほか、店舗前では生徒たちが交通安全旗を手に整列。国道239号をバイクや車で通行するライダーやドライバーに、ポストカードやポケットティッシュを配布するなど安全運転を呼び掛けた。

（雪田康一郎）

町村版 北から 南から

羽幌支局 電話 千078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-62-5225番
0164-68-9225番
天塩支局 千098-3303 天塩町新栄通10丁目

札幌と苫前で販売実習会

苫前商業
高 校 住民らに地元商品PR



苫前市場を訪れた札幌市民らに商品をPRする
苫前商業高校の2、3年生（町提供）



苫前商業高校体育館で開かれた苫前市場に
訪れた地元住民を接客する1年生

【苫前】苫前商業高校（佐藤恵一校長）の販売実習会「苫前市場」が、2日午前10

時から札幌市中央区の大通
ビッセ地下2階と同校体育
館の2カ所で同時開催さ
れ、生徒たちが札幌市民や
地元主婦らに地元商品をP
Rした。

販売実習会は、地域と母
校への愛着を深めることな
る。販売開始から多くの札幌
市民らが列を作り、道教育
委員会の倉本博史教育長も
激励に訪れた。

3年生は3年間の学習の
集大成として、役割分担し
ながら準備を進めてきたと
あって、盛況ぶりに喜びも
ひとしお。商品の特徴など
を来店者に説明しながら積
極的に販売し、同校と苫前
町をPRした。

一方、同校体育館では1
年生22人が接客に当たり、
今後の販売実習に生かそう
と、購入商品や生徒の接
客態度などについて来店者
へのアンケート調査も行っ
た。

米粉を使ったカステラ
「もちもち米べー極」やカ
ステラ

ボチャのパウンドケーキ
「ドラベジケーキ」など、同
校生徒が開発した各種商品
を買い求める地元主婦らで
にぎわった。
（雪田康一郎）

7日に開会 会期10日間

小平町議会定例会

【小平】町議会第3回定
例会は、7日に開会する。
会期は16日までの10日間を
予定している。

初日は午前10時に開会。
関次雄町長の行政報告にあ
と、令和4年度一般会計補
正予算案（第3号）などの
議案8件、3年度各会計決
算の認定7件を説明・審
議。決算審査特別委員会を
設置する。3年度決算に基
づく健全化判断比率等、株
式会社おひらの経営状況に
ついて審議し、休会する。
15日は午前10時から決算

苫前町公民館ロビーで開かれている松井敦利さんによる「絆 心で生きる書 作品展」



苫前町公民館ロビーで 松井さんの書の作品展

【苫前】北海道絆men「づくりプロジェクト代表な

どを務める松井敦利さんによる「絆 心で生きる書作品展」が、2日から町公民館ロビーで開かれ、松井さんの人生の教訓や活動に

込めた思いを表現した書道作品が、来館者の関心を集めている。

松井さんは札幌市出身。平成16年9月に札幌屯田防犯パトロール隊を設立、19年9月には北海道ハーレー警ら隊を発足。札幌市を拠点に道内各地で防犯、交通安全活動を展開。25年5月に同プロジェクトを立ち上げ、絆づくりによる安全で安心な社会実現へ向けた活動を行っている。

ロビーには、松井さんによる36点の書道作品のほか、無料で持ち帰れる2種類のポストカードを展示。

訪れた町民らは「笑顔は心を楽しくする 笑顔は人を幸せにする いつも笑顔でいられますように」、「心を受けると書いて愛」などのメッセージが書かれた一つ一つの作品に足を止めて鑑賞している。9日まで。

（雪田康一郎）

THE NIPPON BUNDO SHIMANE

日刊留萌新聞

令和4年（2022年）9月8日（木）掲載

人生の教訓 書と絵に込め

人生の教訓などを描いた書を集めた「絆 心で生きる『書』」展



苫前 札幌の松井さん作品展

【苫前】札幌の防犯ボラメンづくりプロジェクト 代表の松井敦利さん

(59)が人生の教訓などを描いた書を集めた「絆 心で生きる『書』」展が、町公民館ロビーで開かれている。

展示は松井さんが苫前商業高の佐藤恵一校長と親交があることから実現した。松井さんはそば店や土木会社を経営する傍ら、「北海道ハーレー警ら隊」副隊長や「札幌屯田防犯パトロール隊」隊長を務め、地域の防犯活動に取り組んでいる。

「とままえ」の文字を織り込んだ人生訓など37点を展示した。「ぐちゃや弱音は吐くものじゃない飲みこむものなんだ」などの言葉が、ヒマワリなどの絵とともに描かれている。無料。9日まで。終了後は苫前商業高でも展示される。(竹内博)

無償でライン引き 建設会社に感謝状

苫前商業高

【苫前】苫前商業高は同校職員用駐車場の区画ライン引きを無償で行った建設会社「和秀」（留萌市）に6日、地域貢献の感謝状を贈った。

同社は駐車場26台分の区画ラインを、オレンジ色の塗料で塗り直した。オレンジ色にしたのは、降雪期に目立つためだという。同社では来年春にも地域貢献として、同校のグラウンド整備を行う予定だ。

同校を訪れた同社の居原田隆夫社長に、佐藤恵一校

居原田隆夫社長（左）に感謝状を手渡す佐藤恵一校長



長が感謝状を手渡した。佐藤校長は「学校の予算内では環境整備に限界があり、大変ありがたい」と感謝し、居原田社長は「教職員と学生のみなさんのお役に立てれば」と話した。（竹内博）

2022年9月10日（土） 北海道新聞に掲載

手掛けた菓子や農水産物販売 苫前商業高生 札幌で実習会



3年ぶりに札幌で販売実習を行い接客に当たる苫前商業高生（苫前町教委提供）

【苫前】苫前商業高生が、札幌市中央区の大通ヒッセで販売実習会を行い、同校生が開発した菓子や町内の農水産物などを販売した。販売実習は2012年から取り組んでおり、札幌での販売実習はコロナ禍による中断で3年ぶりに開かれた。

2、3年生19人が参加し、2日に行われた。生徒たちは地元産米粉のカステラや

カボチャのマドレーヌなどの開発商品と、メロンやミニトマト、酢だこなど町内の農産、水産加工品の計36種類の商品を販売した。

販売実習は20、21年と町内で行ったが、生徒全員が札幌での実習は初体験。実習リーダーの伊東大輝さん（3年）らは緊張しながらも、来場者に「いかがですか」と声を掛けて商品売り込んでいた。（竹内博）

2022年9月11日（日） 北海道新聞に掲載

駐車場線引きで感謝状 苫前商高 建設業・和秀に



佐藤校長(右)が居原田社長に感謝状を贈呈した

この日、同社の居原田隆夫社長が同校を訪問。佐藤校長が感謝状を贈呈した。佐藤校長は駐車場のラインについて「とても見やすく、交通事故防止になる」と感謝。

居原田社長は、校長をはじめとした職員の一生涯懸命な取組に触れ「学校環境整備の手助けができてうれしい」と話した。

【留萌発】苫前商業高校(佐藤恵一校長)は6日、同校で留萌市内の建設企業(和秀)に感謝状を贈呈した。同校駐車場のライン引きに対するもの。佐藤校長は駐車場のラインについて「とても見やすく、交通事故防止になる」と謝意を示した。

同校の駐車場では、車と車を区切るラインが消えかかっており、駐車しにくい状況となっていた。事情を聞いた同校では1、2日の2日間、駐車場のライン引きを実施。ハンドローラー3台を使い、普通乗用車25台分、障がい者用1台分の駐車場のラインを一つ一つ丁寧に引いた。

同校ではこの取組に対して感謝状を贈ることとした。

異動計画案を議論

留萌局 人事推進会議

【留萌発】留萌教育局は7日、オンラインで留萌管内公立小・中学校教職員人事推進会議を開催した。管内市町村教委の教育長や校長ら18人が参加。5年度当初人事異動計画案について説明したほか、計画案に関する意見交換や検討を行うことがねらい。

あいさつに立った川村秀明局長は人事異動について「留萌市でも、留萌市と

町村版 北から南から

苫前商業高校の3年生が カボチャの収穫作業体験



上田さんの畑でカボチャの収穫作業に汗を流す
苫前商業高校の3年生たち

【苫前】苫前商業高校(佐司代表取締役)が所有する、藤恵一校長)の地域学試行事業「カボチャの収穫」が、同校3年生12人が生産現場で農業に親しみながらマチファーム株式会社(上田卓の特産品について理解を深めた。

令和5年度に実施を予定している新2年生対象の農業に関する学習に向けた試行事業。町特産のカボチャなどを生産、自社で加工も行い道の「北のハイグレード食品」に選ばれた「かぼちゃ団子」などの商品を製造する同社の協力を得て実施しており、5月にはカボチャ苗植えにチャレンジした。



キッチンカー利用者に牛乳を配布するるもい
農業協同組合天塩支所の「うしぶちよう」(左)

畑にしゃがみ込んだ生徒は、はさみを使ってつるの中から取り出したカボチャを別の生徒に向けて投げ、受け取った生徒は布巾でカボチャの泥を除去。さらに、トラクターのパ

ケット前で待機する同社従業員らにカボチャを投げ渡すなど、役割分担しながら作業。直径15センチほどのずりや重いカボチャが次々と宙を舞い、バケットいっぱいになり詰め込まれるこの時期

中止が相次ぐ中、マチを盛り上げようと企画。会場には町外から訪れた11台のキッチンカーが並び、テークアウトメニューを販売した。

「うしぶちよう」が牛乳配布

天塩でキッチンカーフェス

【天塩】るもい農業協同組合 所長 主催の「うしぶちよう」組合天塩支所(田中和也支)「うフェスティバル」がこの



ほど、道の駅「てしお」イベント広場で開かれた。11台のキッチンカーがテークアウトメニューを販売し、利用者には牛乳が無料配布された。

新型コロナウイルス感染

キッチンカー利用者は、同支所のマスコットキャラクター「うしぶちよう」が、先着100人限定で200円超えりの牛乳を無料配布。同支所のブースを設けて、牛乳とイチゴやピーチシロップを使ったトロピカルミルクを販売するなどして、牛乳の消費拡大を図った。

羽幌支局
電話 078-4105 羽幌町南5条5丁目
0164-62-5225番
FAX 0164-68-9225番
天塩支局
098-3303 天塩町新栄通10丁目

農林の協力のもと食育学習を実施。食料生産に携わる人の工夫や願いを知ること、食に関する理解を深め、地域を大切にしようとする心情を育てることを目的としている。

札内北小の児童たちは事前に、国内外や十勝、幕別町の食料自給率や物価の比較、食とSDGsの関わり

について学習した。

北王農林では、はじめにトウモロコシ2種を試食した。2種の違いを問われた児童たちは「1つ目は甘みが強く、みずみずしい」「2つ目は味が薄く、さっぱりしている」などと回答。1つ目は朝採り、2つ目は6日前に収穫したもの。本州などでは運送に日にちがかかるため、2つ目の状態で届くことが多いと、児童たちは実感を持って学んだ。このあとほ場に向かい、トウモロコシの収穫や選別作業を体験。自分たちが採ったトウモロコシが夕方に販売されると知った児童たちは、地域住民のためにと積極的にトウモロコシを収穫した。

今回の事業では、農業分野で植栽から生育、収穫を経て加工までの流れを捉えることをねらいとしており、生徒たちは5月にカボ

町の農業理解深める

苫前商高 カボチャ収穫

事業円滑化へ地域学試行

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は9月27日、町内の上田ファーム（株）畑地で地域学試行事業「カボチャの収穫」を行った。3年生12人が参加。生徒自身で苗を植栽したカボチャの収穫体験を通して苫前町の農業について理解を深めた。

事業は5年度の2年生を対象としたもの。来年度からの事業を円滑に実施するため、同校3年生を対象に試行した。事業の名称はオロロンデザインで、町の農業、漁業、酪農業を学び、1次産業について商業の視点から理解を深めるものとしている。

便り10月号発行

豊富町教委

【稚内発】豊富町教委は社会教育だより10月号を発行した。22日と23日に行われる町民文化祭の告知のほか、各種講座の行事予定を

掲載している。

経済等テーマに 旭川市で講演会

15日に道金融広報委

【旭川発】「金融・経済講演会 in あさひかわ」が15日午前10時30分からイオンシネマ旭川駅前で開催



3年生12人が
参加した

た上で、はさみでカボチャのへたを切断し、カボチャの汚れをたわしと雑巾で軽く落としたあと、トラクタに積み込んだ。

生徒たちは暖かな日差しの下で、たくさん実った果実カボチャの収穫に汗を流した。

る。道金融広報委員会主催、日本銀行旭川事務所協力、旭川市教委、上川総合振興局などが後援。

先着120人で参加無料。申し込みはメール

（asahikawa@boj.or.jp）または電話0166

（23）3181で。

令和4年（2022年）10月4日（火）掲載

北海道通信

昭和50年6月12日第3種郵便物認可

日刊 祝日・土曜・休刊 日刊教育版



1日防災学校で段ボールベッドを組み立てる
苫前商業高校の生徒たち

講話や体験で万一に備える

苫前商業高で1日防災学校

【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長、生徒39人)の1日防災学校が、4日午前10時50分から同校体育館で行われ、生徒たちが講話や体験を通じて防災意識を高めた。

防災について学び、地域防災力の向上を図ることなどを目的に、町や北留消防組合消防署古丹別支署の協力を得て開催。この日は

続いて行われた避難所開設訓練では、生徒たちが役割分担しながら段ボールベッドと災害活動用多目的テントを組み立て、有事に備えたほか、水、または湯を注ぐだけで食べられる「アルファ化米」も試食した。終了後、通常授業を行ったあと午後2時半から地震、津波の発生を想定した避難訓練を実施。

地震発生を伝える校内放送を聞いた生徒たちは、机の下で姿勢を低くし、手で頭を守り、揺れが収まるまで動かない「北海道シェイクアウト」の三つの安全基本行動を実践。同校教諭の指示に従い、同校体育館へ移動するなど各種体験を通して万一の事態に万全を期した。

(雪田康一郎)

北海道新聞 令和4年(2022年)10月5日(水)掲載

段ボールベッド 「丈夫で心強い」

苫前商高で防災教室

【苫前】苫前商業高で「1日防災教室」が開かれ、13年の生徒32人が段ボールベッドなどを組み立てて避難所を開設する訓練などを通じ、災害時の対応を学んだ。

4日に行われた。生徒は体育館に集合し、講師を務める町役場の防災担当者から「避難の際は自分の安全

確保を最優先に」などと、災害時の心構えを説明された。続いて段ボールベッドや簡易テントの組み立てを行い、避難所開設を体験した。

また生徒は町が備蓄する非常食も試食。お湯や水を加えるだけで食べられるアルファ米を味わった。段ボールベッド作りを行った2年生の男子生徒は「段ボールの素材で丈夫なベッドができて、災害時に心強いと思った」と話していた。

(竹内博)



段ボールベッドを組み立て
避難所開設を体験する苫前
商業高生

令和4年(2022年)10月14日(金)掲載

THE NIPPON NEWS SHIRASAKI

日刊留萌新聞



「くま獅子舞」体験 郷土の歴史学ぶ

苫前商高の1年生18人

【苫前】苫前商業高の1年生18人が郷土を学ぶ地域学の一環として、町公民館で地元の伝統芸能「くま獅子舞」を体験した。生徒は獅子（熊頭）を被って、開拓期の惨劇を再現する演舞に触れた。

くま獅子舞の題材は、クマの襲撃で7人が死亡した1915年（大正4年）の「三毛別ヒグマ事件」。町民が後世に伝えようと、1

クマの動きを学ぶ苫前商高生（苫前町教委提供）

970年代に考案した。地域学での体験は6日に実施され、町くま獅子保存会の花井秀昭会長ら会員4人が指導に当たった。

生徒は、熊頭と村人役、太鼓と笛の演奏担当の4パートに分かれ、保存会会員の指導を受けた。熊頭役の生徒はクマの動き、村人役の生徒は農作業の様子を熱心に学んだ。

生徒は今月から来月にかけて練習を積み、12月に行う同高の体験発表会に臨む。（竹内博）

町民作品や高校生カフェ 多彩な催しの2日間満喫

苦前

【苦前】町公民館、町文化協会共催の「公民館フェスティバル」が29、30の両日、同公民館で開かれた。同協会加盟団体などによる作品展をはじめ、苦前商業高校（佐藤恵一校長）の高校生カフェ「TOMACAFE」など多彩な催しが行われ、町民らでにぎわった。

また同公民館内のロビー

や各部屋では、高校生カフェ「TOMACAFE」、料理教室や健康講座、紙袋ラントンなどの工作教室、リズムに合わせてコントローラーのボタンを押して遊ぶ

「eスポーツ体験」、北欧発祥のニュースポーツ「モルック」の体験会が開かれ、町内3店舗がエビフライカレーやちらしなどなどのテークアウトメニューを販売するなど、多彩な催しを実施。

そのうち、高校生カフェでは、コーヒーやレモネードをはじめ、ハロウィーンにちなんでカボチャの形のビスケット、カボチャプリンパンなどを販売。

販売開始前から来場者が列をつくり、同校生徒が接客に大忙し。販売開始10分ほどで売り切れる商品が続出するなど、人気を集めていた。
(雪田康一郎)

牛との触れ合

天塩 園児や

【天塩】町教育委員会主



苦前商業高校の生徒たちによるカフェなどの多彩な催しが行われた「公民館フェスティバル～町民作品展～」

町村版

北から南から

カードゲームなど通じ
SDGsについて学ぶ

吉前 1年生がワークショップ

【吉前】吉前商業高校(佐藤 校長)の2030年人講話やカードゲームSDGs「カードゲームワークショップ」が、7日午後1時から同校2階視聴覚室で開かれ、1年生15人が講話やカードゲームSDGs「カードゲームワークショップ」を通じて、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)について学んだ。



カードゲームを通じてSDGsについて学ぶ
吉前商業高校の1年生

SDGsは、2030年までに達成すべき「エネルギーをみんなに」そして「気候変動に具体的な対策を」など、17の目標と169のターゲットで構成する国連の開発目標。

町では、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「吉前町ゼロカーボンシティ宣言」を今年1月に行い、6月には脱炭素推進条例を施行するなど、脱炭素社会実現に向けて取り組みが続いている。

また、道が道内市町村のSDGs推進を促すため行っている今年度の「市町村におけるSDGs推進支援カード、時間カードを使っ

事業」の対象自治体に、留萌管内で唯一、吉前町が選ばれている。

この日のワークショップは同事業の一環として行われ、講師はSDGsカードゲームワークショップ「2030SDGs」公認ファシリテーターの高橋優介さんが務めた。

生徒たちは、高橋さんからSDGsの概要について説明を受けたあと、2人ずつ8チームに分かれてカードゲームにチャレンジ。「2030SDGs」は、17の目標を達成するための現在から2030年までの道程を体験するカードゲーム。各チームには資金、時間、プロジェクトなどのカードを配布。プロジェクトカードは「子供を働かせない」「住む場所にはばたき場を作る」などの種類があり、それぞれ実行するために消費する資金や時間の目安が書かれている。各チームが手持ちの資金カード、時間カードを使っ

てプロジェクト活動を行うが、プロジェクト活動を行うたびに①経済②環境③社会の3項目の数値が変化していく。ゲーム終了時に経済や社会の数値が10以上など、チームごとに決められたゴール条件の達成を目指すルール。

子供を働かせると、経済の数値は増えるが社会の数値は減り、住む場所にはばたき場を作ると社会の数値は増加する一方、経済の数値は減少。大きな工場を作ると、経済の数値が増えるが環境の数値は減る。といった具合で、参加者が行うプロジェクトの結果で未来の世界が変わっていく。

ゲーム前半では、各チームが思い思いのプロジェクト活動を実行した結果、経済の数値が伸びに伸び、環境、社会の数値がゼロに近づき、3項目のバランスを保つ難しさを実感。休憩を挟んだ後半では、生徒たちの意識が変わり、他のチームと話し合い、カードを交換するなどしてプロジェクト活動を行い、環境や社会の数値を増やし、3項目のバランスを保ちつつ、全8チームがゴール条件を達成した。

終了後は、生徒たちが「自分たちだけでなく、ほかの人と協力する大切さが分かった」「地球の一員として

羽幌支局
電話 078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-6215225
0164-6819225
〒099-3303 天塩町新栄通10丁目

掃除と整頓テーマに

特設コーナーに30冊



小平町文化交流センター内の図書室の特設コーナー

【小平】町文化交流センター内の図書室は、年末に掃除と整頓をテーマにした「掃除と整頓」の特設コーナーを1日から開設している。若男女問わず、利用者の関心を集めている。

特設コーナーは、季節感などを大切にする図書室運営の一環として、季節ごとの行事やその時々時事、

の意識が芽生えた」などと感想を発表した。

高橋さんは「きちんとコミュニケーションをとって、自分たちの行動は世界につながっていく。本来、全部のチームがゴールするのは難しいが、前半と後半でみんなの気持ちが変わり、協力し合えたのは素晴らしいこと。現実世界で取り組むにはどうしたらいいのか、考えてみてほしい」と呼び掛けた。(雪田康一郎)

「より一層の努力続ける」

小平町 長年の功績をたたえる

【小平】令和4年度町長「こまどり大い発展、ステーション

の栄誉は、周囲の理解と協力を得たからこそのもので、さらなる町政伸展のため、

の栄誉は、周囲の理解と協力を得たからこそのもので、さらなる町政伸展のため、

くま獅子舞、苫前商高生が猛稽古 3日発表会、ライブ配信も



【苫前】苫前商業高の1年生18人が、郷土芸能「くま獅子舞」の稽古に励んでいる。郷土の歴史を学ぶ地域学の一環で、9月下旬から稽古に取り組む。晴れ舞台となる同校の体験発表会は3日。本番を控えて最終となる稽古で生徒たちは、同校体育館で町くま獅子保存会の指導を受けながら、くま獅子の動きや、笛と太鼓の演奏の調和を入念に確認した。

町の無形文化財でもあるくま獅子舞の題材は、クマの襲撃で7人が死亡した1915年(大正4年)の「三毛別(さんけべつ)ヒグマ事件」。町民が悲惨な出来事を後世に伝えようと、70年代に考案した。1年生は今春から事件の現場を見学するなど歴史を学んだ後、保存会の花井秀昭会長(62)ら会員の指導で稽古を積んできた。

くま獅子舞は、クマの来襲から猟師による駆除までを描いた45分に及ぶ長編の演舞。今回は小学生用に15分にアレンジされた短縮版を選んだ。生徒たちは熊頭(獅子舞)と村人役の出演者、太鼓と笛の演奏担当の4パートに分かれ、町公民館や同校体育館で6回の稽古に汗を流した。

リハーサルを兼ねて行った11月30日の稽古でも、「熊頭の前側と後側で動きがちぐはぐだ」などと保存会の厳しい指導を受けた。熊頭担当の粕谷寿至(こてつ)さん(16)は「演奏と動きを合わせるのが難しいが、クマの迫力ある動きは楽しい」と話す。笛を担当する石井里佳さん(16)は「練習時間が不足、高音が出しにくいけど頑張ります」という。

保存会は会員の高齢化などで途絶えていた公演を2017年に10年ぶりに復活させ、郷土芸能の継承に努めている。花田会長は「苫前の歴史を演じてもらうことで、生徒に郷土への思いを育んでもらえたら」と期待する。

発表会は同校体育館を会場に3日午後1時開演で、くま獅子舞は同2時15分ごろから行われる。ただ、会場への入場は、新型コロナウイルス感染対策で保護者と来賓に制限。このため、町教委は動画投稿サイトYouTube(ユーチューブ)でライブ配信し、町公民館でパブリックビューイングを行う。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2022 年 12 月 2 日

木札に集中 素早い動き 苫前商高伝統のかるた大会



【苫前】苫前商業高の年末恒例の伝統行事「下の句かるた大会」が同校体育館で開かれ、生徒たちが熱戦を繰り広げた。

生徒会の主催で1987年から開催され、今年は23日に実施した。1チーム3人一组で計11チームが出場し、町内のかるたサークルが読み手を務め、トーナメント戦で優勝を競った。

生徒は国語の授業や放課後の時間を使って練習に励んだ。試合で生徒たちは目の前に並べた

木札に全神経を集中し、下の句が読み上げられると素早い動きで札を取り合っていた。休み時間も返上し練習を重ねた貝塚奏七(そな)さん(3年)は「高校生活最後の思い出になりました」と話していた。

昼休みには町内の農家と漁業者が新米とタコを提供し、生徒は炊きたての白米と新鮮なタコの刺し身で郷土の味を堪能した。(竹内博)

苫前商高、留萌管内の最優秀賞 「絆づくり」メッセージ部門



【苫前】本年度の「絆づくりメッセージコンクール」(北海道いじめ問題対策連絡協議会主催)の「ことば・メッセージ部門」高校団体の部で、苫前商業高生徒会が留萌管内の最優秀賞を受賞し、19日に同校で留萌教育局から賞状が贈られた。

道教委などでつくる同協議会は、いじめやネットトラブル根絶を目指し、毎年、小、中、高校生対象に、ポスターやことばでメッセージを募っている。本年度の同部門には留萌管内から17点の応募があり、同校生徒会の「友達に 応えてあげよう君の

声 求める人が救われる」が選ばれた。

留萌教育局の川村秀明局長から、生徒会会長の嶋田開さん(2年)とメッセージを考えた林裕真さん(1年)に賞状が手渡された。嶋田さんは「生徒会では今後もメッセージの募集を行い、いじめのない過ごしやすい学校をつくりたい」と話していた。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2022 年 12 月 23 日

苫前商高生が除雪に汗 古丹別の独居老人宅で奉仕活動



【苫前】苫前商高生が、学校がある町古丹別地区の独居老人宅で除雪ボランティアに取り組み、地域貢献活動に汗を流した。

同校が毎冬行う奉仕活動で、今年は1、2年生25人が22日に実施した。今回は羽幌署の苫前、古丹別駐在所員2人も参加した。生徒は3班に分かれ、お年寄り宅3軒を訪問。スコップやスノーダンプを使い、家屋の周辺や窓などの雪かきに励んだ。

家の裏に1・5メートルほどの積雪があった水谷晴雄さん(92)は「昨冬より雪は少ないが、裏に面した窓が開けづらいので助かります」と感謝した。生徒会長の嶋田開さん(2年)は「少しでも地域の人々の力になれば」と話していた。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023 年 2 月 24 日

教育予算「実感できた」 苫前商高生が町議会傍聴



【苫前】苫前商業高の2年生6人が8日、町議会を傍聴した。来月の統一地方選を前に新年度で18歳の選挙権年齢を迎える生徒に、町政の仕組みを知ってもらおうと実施した。

この日は定例会2日目で、新年度予算の提案説明が行われた。質疑応答はなかったものの、生徒たちは熱心に耳を傾けた。

生徒会長の嶋田開さん(17)は「教育関係の予算に少なくないお金が使われていると実感した」と話す。来月で18歳になる西田春菜さん(17)は「自分たちの学校にも予算が付けられており、参考になった」と話していた。町議会は新年度の各会計予算案など議案9件を審査する予算特別委を設置し休会した。14日に再開し一般質問を行う。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023 年 3 月 8 日

＜苫前＞全商1級3種目取得 苫前商業高3年・森井柚稀さん

卒業式で協会表彰



【苫前】苫前商業高の3年の森井柚稀(ゆずき)さん(18)が、全国商業高校協会主催の検定試験1級を3種目以上取得し、4日の卒業式で表彰された。

3種目以上の取得者が卒業年次に同協会から表彰を受けており、2022年度は森井さんがビジネス文書実務検定など3種目に合格した。生徒会長を務めた森井さんは「タイピングは生徒会活動で入力する機会が多く、自然と上達しました」と話す。

森井さんは4月から北翔大(江別市)の心理カウンセリング学科へ進学する。「将来は公認心理士を目指したい」と夢を語り、「苫前商業高では地域のボランティアや生徒会活動などを体験し、人間力が上がりました」と母校に感謝した。(竹内博)

教育予算「実感できた」 苫前商高生が町議会傍聴



【苫前】苫前商業高の2年生6人が8日、町議会を傍聴した。来月の統一地方選を前に新年度で18歳の選挙権年齢を迎える生徒に、町政の仕組みを知ってもらおうと実施した。

この日は定例会2日目で、新年度予算の提案説明が行われた。質疑応答はなかったものの、生徒たちは熱心に耳を傾けた。

生徒会長の嶋田開さん(17)は「教育関係の予算に少なくないお金が使われていると

実感した」と話す。来月で18歳になる西田春菜さん(17)は「自分たちの学校にも予算が付けられており、参考になった」と話していた。

町議会は新年度の各会計予算案など議案9件を審査する予算特別委を設置し休会した。14日に再開し一般質問を行う。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023年3月9日

苫前商高と初山別小、道教育実践学校表彰



【苫前、初山別】優れた教育活動に贈られる2022年度の道教育実践表彰の学校表彰に、留萌管内から苫前商業高(佐藤恵一校長)と初山別小(安居和(むつみ)校長)が選ばれた。

苫前商業高は生徒の企画による自転車ツーリング事業や郷土を学ぶ地域学(とままえ学)の導入、初山別小は児童の学力向上や学校改善への取り組みが評価された。

伝達式は17日に両校で行われ、留萌教育局の川村秀明局長が両校の校長に表彰状と盾を手渡した。苫前商業高の佐藤校長は「地域とのつながりを大切に、今

後も魅力ある学校づくりに励みたい」と語った。安居校長は「教職員一丸となって取り組んだ結果なので、

大変うれしい」と述べた。(竹内博)北海道新聞 電子版 2023年3月22日

山本建設工業に感謝状 苫前商高 学校環境整備で



【留萌発】苫前商業高校(佐藤恵一校長)は12日、同校で苫前町内の建設企業・山本建設工業(株)に感謝状を贈呈した。同校敷地内の除雪および学校敷地内の樹木の剪定に取り組んだことに対するもの。佐藤校長は同社の取組に謝意を示した。同社では、卒業式会場の万が一の避難経路の確保として同校敷地内の除雪を3月に実施。敷地内樹木の剪定は、生徒たちが安全・安心に登下校できる環境を整えることをねらいに4月に実施し

た。同校では同社の取組に対して感謝状を贈ることとした。この日、山本道浩社長が同校を訪問。佐藤校長が山本社長に感謝状を手渡した。山本社長は、3月に同校を卒業した生徒が同社に就職しており、4月の敷地内樹木の剪定に初の現場作業として参加したことに触れ「苫前商の卒業生が入社し、会社も若者から元気をもらっている。苫前商で学んだ卒業生が地域に残って働いてくれることが何よりうれしい」と話した。

北海道通信 2023-04-21 付

苫前の桜祭り4年ぶり開催 5月7日、古丹別緑ヶ丘公園で 商高生のカフェも



【苫前】古丹別緑ヶ丘公園桜祭り(実行委主催)が5月7日、2019年以来4年ぶりに開催される。コロナ禍で20年から3年連続で中止していた。公園周辺にはエゾヤマザクラやチシマザクラなど約800本の桜があり、留萌管内の桜の名所として知られる。今回は苫前商高生のカフェ「苫カフェ」などの露店が並び、実行委では「久しぶりの祭り気分を味わって」と来場を呼び掛けている。

実行委によると、25日現在、桜の大半を占めるエゾヤマザクラは二、三分咲きで、大型連休最

終日の祭り当日には見頃を迎えそうだ。実行委では今春の暖気を考慮し、開催時期を例年より1週間早めた。実行委事務局の加藤隆雄さん(71)は「連休中に咲き始めてくれたら、祭り当日には満開になりそう」と期待する。苫前商高は1年から3年の11人がカフェを出店。生徒が入れたコーヒーやカフェオレを提供するほか、地元の上田ファームの菓子パンを販売する。2021年から取り組むカフェは今まで町の公民館フェスなどで開催してきたが、イベントへの出店は初めて。生徒たちはドリップコーヒーの入れ方を練習し、準備に励んでいる。祭りは午前11時に打ち上げ花火で開幕。留萌出身の演歌歌手窪田みゆきさんの歌謡ショーやカラオケ大会、地元の郷土芸能「豊饒(ほうじょう)太鼓」演奏を予定している。

会場には商工会なども露店を出し、焼きそばやたこ焼き、ビールなどを販売する。焼き肉用のコンロ、網は無料で貸し出すが、会場で肉類の販売は行わず持参が必要だ。

問い合わせは古丹別支所内の実行委事務局、電話0164・65・3311へ。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023 年 4 月 26 日

自転車道北ぐるり のんびり派も本格派も楽しんで 田園風景、樹種の変化眺め アイヌ文化触れるコースも



春の心地良い風に吹かれ、自転車のペダルをこぐ人が増えてきた。身近な買い物などで自転車に乗る人も、ゴールデンウィークは少し距離を延ばしてサイクリングを一。道北にはサイクリングルートがたくさんある。サイクリングや自転車観光の魅力を紹介する。

上川、留萌、宗谷管内の道北一円には、さまざまなサイクリングルートが広がっている。観光施設や景観スポットと絡めたルート設定や、自転車が走行しやすいよう環境整備も進む。サイクリストにとって、本格的な走行から、のんびり楽しめるコースまで盛りだくさんだ＝地図＝。

国道、道道を管理する開発局、道が事務局の北海道サイクルルート連携協議会は市町村や観光団体、自転車関係団体と協力し、ルートを設定している。旭川市から宗谷岬までと、利尻島1周の「きた北海道ルート」(全長372キロ)、丘陵地帯やラベンダー畑などを巡る「富良野美瑛サイクリングルート」(全長277キロ)、増毛町から天塩町までをつなぐ「オロロンライン・サイクルルート」(全長約140キロ)がある。

「きた北海道」は国道40号に並行して道北を縦断する。塩狩峠越えはあるがおおむね起伏が少なく、緩やかな下りが

続く。なよろ観光まちづくり協会の畑中覚是事務局長は「田園風景や樹種の移り変わりなど景色の変化を味わってほしい」とPR。JR宗谷線に沿うため「(自転車を専用の袋に収納する)輪行でJRも活用できる」と話す。十勝岳やラベンダー畑などの絶景がポイントの「富良野美瑛」。丘陵地帯はアップダウンが激しく上級者向け。富良野美瑛広域観光推進協議会は「交通量の少ない道が多く、伸び伸び走れます」とアピールする。「オロロン」は今年3月に追加された。苫前商業高の生徒が製作したサイクルラックを道の駅やカフェに設置するなど整備が進む。留萌開発建設部は「市町村や民間事業者と協力し、地域資源を掘り起こして環境づくりを図る」。留萌振興局のホームページ(HP)では観光地や走行距離、高低差などを示した地域別の6ルートを紹介。道の駅に案内チラシを置いている。

ユニークなコースセッティングもある。旭川市はアイヌ民族ゆかりの地を組み込んだコース「レラ・ル」を設定する。全長60～120キロで4コース。突峭山チャシ跡や嵐山公園の「アイヌ文化の森・伝承のコタン」などを巡ることができる。「自転車を通じてアイヌ文化に触れてほしい」(市観光課)と勧める。

このほか、観光団体などがつくったルートが数多くあり、各ルートを紹介するマップや地図は、関連するインターネットのホームページや役場、道の駅などで手に入る＝表＝。(桜井則彦)

サクラ800本、気分も満開 苫前で4年ぶり桜祭り



【苫前】古丹別緑ヶ丘公園桜祭り(実行委主催)が7日、2019年以来4年ぶりに同公園で開かれた。町内外から多くの花見客が訪れ、焼き肉や歌謡ショー、地元の郷土芸能「豊饒(ほうじょう)太鼓」の演奏などを楽しみ、コロナ禍で中断していた久しぶりの祭り気分を味わった。

公園と周辺には約800本の桜があり、エゾヤマザクラは盛りを過ぎたが、淡いピンクや白色のチシマザクラは見頃を迎えた。この日は青空が広がる花見日和で、祭り開幕の午前11時前から、会場はコンロで肉や海産物を焼く来場者でにぎわった。

会場には町商工会など地元有志の露店も並んだ。苫前商高生もカフェ「苫カフェ」を出店し、生徒が入れたコーヒーやカフェオレが人気を集めた。

祭りに先立ち、同公園内の平和の鐘戦没者慰霊堂では「平和の鐘慰霊法要」が執り行われ、留萌管内の遺族ら20人が戦没者の冥福を祈った。(竹内博)

苫前商高運営、地域と一体で コミュニティ・スクール初会合



【苫前】苫前商業高は本年度から地域住民が学校運営に携わるコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、初会合を同校で開いた。

コミュニティ・スクールは学校運営に保護者や地域の声を生かし、地域と一体となり特色ある学校づくりを進めるのが狙い。協議会は学校運営について話し合い、道教委や校長に意見を述べるができる。4月27日の初会合には、佐藤恵一校長と地域の委員ら計16人が出席。会長に町議の早川日出利氏(67)を選出

し、学校側が学校運営の基本方針を説明した。続いて「地元の生徒にとって魅力ある高校とは」をテーマに意見交換を行った。委員からは「中学校と高校で合同の部活動練習を行っては」「商業高校としての強みをアピールしては」などの意見が出た。また高校側からはインターンシップや企業見学、外部講師依頼への協力などの要望が出された。(竹内博)

苫前商業高生、苫前中で学校説明会 独自科目や「とまカフェ」紹介



【苫前】地元の中学生に学校の魅力をPRしようと、苫前商業高(佐藤恵一校長、30人)は22日、苫前中(西山智章校長、63人)で初の学校説明会を開いた。苫前出身などの商業高生5人が、同校独自の教育科目「とままえ学」や220キロを走破する自転車ツーリング、生徒が入れ立てのコーヒーを提供する「とまカフェ」などを紹介した。

同校はこれまで体験入学を行ってきたが、地元中学で全校生徒を対象に行うのは初の試み。今春の入学生は6人と少なく、入学が2年連続10人未満だと道教委の再編対象となるため、苫前中

の協力で説明会を実施した。苫前商の佐藤校長は「地元の子どもに学校を理解してもらいたい。1人でも多く地元から入学してもらえたら」と期待する。

説明会では町内の古丹別中(現在は閉校)出身の秋山美海(みみ)さん(2年)と、苫前中出身の石井湊さん(同)ら5人が説明役を務めた。5人はパワーポイントを使い、地域の歴史や産業を学び地元製品のマーケティングにつなげる「とままえ学」や、夏に2泊3日でオロロンラインなどを走る自転車ツーリング、地元のイベントなどに出店し好評の「とまカフェ」などを紹介した。

販売実習などで必要なあいさつの体験も行った。5人は角度15度の会釈から45度の最敬礼まで3通りのおじぎの手本を示し、中学生がそれに習った。説明会は時折ユーモアを交えながら進み、会場の体育館には笑いが絶えなかった。

苫前中3年の佐井暖未(あいら)さんは「明るい雰囲気学校の様子がよく分かった」と話す。講師の秋山さんは「地元の苫前を学ぶ『とままえ学』はどこにもない科目。魅力を伝えられた」と満足そうだ。苫前中の西山校長は「高校生自らが学校を紹介してくれたことで、生徒の心にも響いたと思う」という。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023年5月26日

第8回ほっかいどう学連続セミナー 留萌の魅力支えるもの

留萌小・高橋教諭ら実践発表等



【留萌発】ほっかいどう学推進フォーラム（新保元康理事長）は27日、第8回ほっかいどう学連続セミナーを開いた。留萌市内の道の駅るもいを会場にオンライン配信も実施。「留萌の魅力を支えるものの再発見」をテーマに、発表やパネルディスカッションを通して、留萌地域の将来について考えを深めた。セミナーは、北海道各地の魅力とそれを支えるインフラの価値を再発見し、それをどのように教育

につなげるか議論するもの。関係者約40人が参加した。同フォーラムの倉内公嘉副理事長があいさつ。同フォーラムの活動に触れたほか、北海道にはまだまだ知らないことがたくさんあることから「新しいことを知ることはいい」と話した。続いて、道開発局留萌開発建設部の大石珠希次長が「あらためて知ってほしい留萌インフラの底力」、留萌市立留萌小学校の高橋基文教諭が「道の駅るもいを核に未来の留萌を考えよう!」、苫前商業高校の稲瑞希教諭が「高校商業科みち学習構想～留萌の魅力発見モデルコースを考える」、(株)コササルの金川文子チーフトラベルプランナーが「コササル留萌を目指して!」と題してそれぞれ発表した。うち高橋教諭は諸外国の石油禁輸等を背景とした太平洋戦争を例に、留萌で石油の研究をしていたことを示すことで児童がその歴史を身近に感じ、自分事として考えるきっかけとなることを説明した。学びを身の回りの出来事と結び付ける地域学習が主権者教育や社会参画の入り口となることを強調。今後の道の駅での学習についても紹介した。稲教諭は生徒自らがツーリングのルートやスケジュールなどを考える自転車ツーリング事業や、コーヒーや生徒開発商品などの販売をする苫カフェ、苫前町の文化や歴史を学ぶとままえ学について紹介。みち学習については、3年生の課題研究としてオロロンラインの観光プランの作成に向けて外部講師の講話やフィールドワークなどに取り組んでいることを説明した。みち学習を通して生徒たちに「3年間過ごした苫前町や留萌管内について観光という商品を通して考える力や企画力を身に付けさせたい」「達成感を味わってほしい」などと話した。このあと、パネルディスカッションでは、新保理事長がコーディネーターを務めたほか、パネリストとして大石次長、高橋教諭、稲教諭、金川氏が参加した。留萌地域の未来に向けて、高橋教諭は今までは地域の問題を取り上げるとどうしても暗い話題にしかならないことに触れ「もっと地域に明るい未来をつくろうとしていることを取り上げていかなければならないと感じた」。稲教諭は、留萌建設協会二世会の萌志会と生徒がワークショップを行ったことに触れ「その業界の方々の話を聞いて生徒の考えが引き出されることが良かった。学校だけではなく、行政や企業の方々の話を聞いて、ディスカッションすることで生徒の成長につながるのでは」とそれぞれ話した。

北海道通信 2023年5月30日

三毛別ヒグマ事件や農漁業史学ぶ 苫前商高の地域学スタート



【苫前】苫前商業高の地元の歴史や産業を学ぶ地域学(とままえ学)が今年もスタートした。1年生6人々は初回の授業「歴史探検」で、7人が犠牲となり史上最悪の獣害として知られる「三毛別(さんけべつ)ヒグマ事件」の復元地(町内三溪)や、開拓期からの町の歴史を伝える郷土資料館を見学した。

同校は昨年度、生徒の道外募集を始めるに当たり、学校の特色づくりとして地域

学を導入した。今年初の授業は26日に行われ、開拓期の1915年(大正4年)に起こった三毛別事件をはじめ、町内の農業や漁業、酪農の歴史を学んだ。

生徒たちは町郷土史研究会の伊藤通康会長を講師に、三毛別事件の復元地を訪問。伊藤会長は体重340キロ、体長2・7メートルのヒグマが開拓民を襲撃した惨劇の模様を解説し、生徒たちは熱心に耳を傾けた。資料館では、水揚げしたニシンを浜で煮る際に使った直径1・4メートル、深さ60センチの鉄釜や、足踏み式の脱穀機などの収蔵物を見学し、地元の産業に理解を深めた。村上芽華さん(15)は「歴史に触れることで、苫前をより深く知ることができました」と話していた。(竹内博)

北海道新聞 電子版 2023年5月31日

建設企業 7 社に感謝状 苫前商高 校庭整備など



佐藤校長（左から 4 人目）が感謝状を渡した

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は 5 月 29 日、同校で地域貢献活動に関する感謝状贈呈式を執り行った。グラウンドや教員住宅敷地の整備などを行った 7 社に感謝状を贈呈。佐藤校長はグラウンドの整備に触れ「体育行事等で有効活用したい」と謝意を示した。

今回の表彰は、(株)堀口組（留萌）や橋場産業(株)（苫前）、山本建設工業(株)（苫前）、渡部工業(株)（苫前）、苫前建設工業(株)（苫前）、(株)道北土木（羽幌）、(株)和秀（留萌）の 7 社。

7 社ではグラウンドや教員住宅敷地の整備のほか、学校敷地内樹木の剪定、駐車場のライン引きなどに取り組んだ。

贈呈式には各社の代表者が出席。佐藤校長が一人ひとりに感謝状を手渡した。

佐藤校長はグラウンド整備について授業での活用の幅が広がったことに触れ「体育行事等で有効活用したい」と謝意を示した。北海道通信 2023-06-05 付

苫前商高

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）では4、5月、みち学習のフィールドワークや苦力フェ、建設企業とのワークショップ、中学生への学校説明会など様々な取組を実施した。

観光モデルコース 作成へ地域を巡検

4月下旬、苫前町内で同町の地域資源に関するフィールドワークを行った。



た。3年生6人が参加。苫前漁港や道の駅「風Wとままえ」を巡るなどオロロンルートの観光モデルコースの作成に向けて学びを深めた。

3年生のみち学習の一端で実施しているもの。これまで外部講師を招き、観光の定義や旅行形態、留萌管内の観光の課題などについて理解を深めている。

この日、柳コササルの金川文子氏によるガイドのもと、苫前漁港や道の駅「風Wとままえ」など町の観光のモデルコースを回った。

生徒たちは旅の快適さやコースの満足度、施設の利便性など旅行者の目線に立って学習。フィールドワークを通して観光モデルコース作成に向けて理解を深めた。

道内各校 さまざまな 取組紹介

今後は生徒一人ひとりが観光モデルコースを開発。同町観光課や留萌振興局など管内の観光関係者に向けて発表する予定となっている。

町内のお祭り で 苦力フェを出展



5月上旬、生徒14人が新型コロナウイルスの影響で4年ぶりに開催された苫前町のさくらまつりにおいて苦力フェを出展。生徒たちが入れるコーヒーのほか、地元企業の上田ファームのパンやかぼちゃ団子、カボチャプリンといった多くの商品を販売するなど、イベントの盛り上げに一役買った。

4月中旬からコーヒーの入れ方を練習するなど準備を進めてきた。午前11時に開店した苦力フェでは、生徒たちが入れるコーヒーをはじめ、パンやかぼちゃ団子、カボチャプリンなど多くの商品を販売し、2時過ぎには全ての商品が完売して閉店となった。閉店後も全員で協力して後片付けを行った。

また、同校に兼任して1、2年目の若手教員が地元豊橋太鼓メンバーとしてステージで太鼓演奏を披露した。

今後は今回の活動の良い点や改善点を踏まえ、7月23日の同町の風車祭りでの苦力フェ運営に向けて準備を進めていく。

建設企業と留萌の 未来へ意見を交換

5月中旬、同校で留萌建設協会・世会の萌志会（堀口哲志会長）によるワークショップが行われた。2・3年生と同会会員を合わせて約30人が参加。留萌地域の活性化に向けて萌志会の会員と活発に意見を交わした。

同会では、担い手確保に向けた事業として初めて高校生を対象としたワークショップを開催した。同校では、総合的な探究の時間として実施。建設業界関係者との交流を通して、地域の今後について考える機会とした。

校生を対象としたワークショップを開催した。同校では、総合的な探究の時間として実施。建設業界関係者との交流を通して、地域の今後について考える機会とした。



生徒と同会会員らを一グループとして4グループでディスカッションを実施。「これからの留萌に必要なもの」をテーマに、様々な店や遊び場、公共交通機関など必要なものを出し合ったほか、留萌地域の活性化に向けて改善策を話し合った。

各グループにおいては「人との交流を深める施設が必要」「人口増加に向けて学校のPRが必要」「その町ならではのものをつくるべきでは」と意見を

出した。

このあと、グループ発表で各グループのアイデアを共有した。

学校の魅力 を 中学生に紹介

5月下旬、苫前町立苫前中学校（西山智章校長）で学校説明会を行った。高校生5人が参加。中学生に対してとままえ学や行事、商業部の活動を紹介するなど、商業の魅力伝えた。

学校説明会は苫前商業高のPRのほか、商業の学びの説明を通して苫前中の生徒の進路選択の幅が広がるよう実施したもの。今回、苫前中の全生徒を対象として初めて実施した。

この日、高校生5人と方イダンス部長の佐賀優真教員が参加した。



論が苫前中を訪問した。佐賀教諭は社会で即戦力となるビジネススキルを学ぶことができる同校について説明。様々な検定試験のほか、民間や公務員、大学など様々な進路があることを紹介した。

続いて、生徒5人が苫前商業高について説明。苫前町の文化や歴史を学ぶとままえ学については、施設見学やくま獅子舞、PR動画制作、販売実習会、課題研究など各学年の取組について紹介した。

商業部の活動については、地域企業と連携してフコ直伝のコーヒーなどを販売する苦力フェのほか、高校生自身が行程・内容などの企画を地域住民と考える実践する自転車ツーリング事業を紹介。地域住民との直接の関わりやゴールした時の達成感など活動の魅力を伝えた。

また、会釈や敬礼など高校の授業体験を行ったほか、質疑応答では学校祭や苦力フェといった高校生と中学生が関わる機会のほか、好きな科目などを答えた。

生徒が6種目に奮闘

小平高等養護学校 父母らも熱い声援



【小平】小平高等養護学校（人の体育祭「オリンピック」）の同校グラウンドで開かれた（南端利文校長、生徒30）が、23日前日時から、生徒たちが6種目に奮闘した。

1000m走などの競技が行われてた小平高等養護学校の「オリンピック」

「小平」小平高等養護学校（人の体育祭「オリンピック」）の同校グラウンドで開かれた（南端利文校長、生徒30）が、23日前日時から、生徒たちが6種目に奮闘した。オリンピックは、「小平」と「オリンピック」から名前の一部を取って名付けられた同校の体育大会の愛称。今年のテーマは「己と仲間と共に走れ！勝利の喜びを味わえ！」。

開会式では、南端校長が「今年は、保護者の皆さんを迎えての開催となり大変喜ばしく思う。皆さんの持つ力を出し切り仲間と心を合わせて、今日の自分が一番良かったと思えるよう頑張ってください」とエールを送り、各学年の代表生3人による選手宣誓が行われた。

この日は、男女それぞれの1000m走を皮切りに、ソフトボール投げや学年対抗旗争奪リレーなど計6種目を実施。また、芸術商業科（佐藤圭一校長）の1年生1人や教職員4人が、記録係を行うなどして大会運営をサポート。ポンポンを持って応援して大会を盛り上げたほか、玉入れに参加して交流を深めた。

生徒たちは、1000m走ではグラウンドを全力で駆け抜け奮戦を繰り出した。ソフトボール投げでは、腕を大きく振りかぶり手前のスナックを利かせ、最も飛距離が出ると思われる上約45度を

目指しながら全力投球。各種目目で頑張る生徒たちの姿を垣間ながら、観覧席

の父母らが熱い声援を送っていた。

（南端利文）

商工会議所の役割学ぶ

日商の荒井恒一さんが講演

留萌商工会議所（大石昌明会長）主催の役員研修会が、23日午後4時から留萌商業会館2階大ホールで開催され、出席した役員23人が日本商工会議所（日商）理事・事務局長の荒井恒一さんの講演を聴いて、商工会議所の歴史や役割について理解を深めた。

講演に先立ち大石会長は「皆さんが商工会、経済界を誇りに思っている。今日、留萌商工会議所は成り立っています。今日は講演を通じてわれわれは何をすべきか、この地域をどうしていくべきかを考えていただきたいと思います」とあいさつした。

荒井さんは、商工会議所の歴史について「1899年にフランスのマルセイユ

所が設置された。その後、日本でも1878年に開業に際して不平専業の権威を目的に、東京、大阪、神戸に商工会議所として設立された」と説明し、1922年に事実上の日本商工会議



火災発生

が燃える



調べる消防官と（時ごろ）

日普通報
間後に消
が人はい
現場は
停車囃
交点から
上がった

目指せ200km走破

自転車ツーリング事業打合せ

苫前商高 ルール決めなど

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は19日、同校で自転車ツーリング事業打ち合わせを実施した。

同士の連帯感や自己有用感を高めることがねらいとなっている。

写真①。同校生徒や関係者ら約20人が参加。自転車で約200kmの走破に向けて関係者と自己紹介やルール決めなどを行った。

本年度は7月25日から2泊3日で増毛町や沼田町などを回る予定となっている。

事業は高校生自身が行程・内容などの企画を地域住民と共々実践するもの。企画立案能力の向上ほか、事業の実施から終了までの達成感などを体験し、生徒

佐藤校長があいさつ。クラウドファンディングの状況のほか、毎年様々な人の協力で実施していることから感謝の気持ちを忘れずに取り組むことを求めたほか、「皆さんでいい方向に行くよう声をかけながら助

け合ってほしい」と呼びかけた。

続いて、同校の担当教諭が3年度から実施している同事業の概要のほか、関係者の支援・協力で成り立っていることをあらためて説

明。実施に当たって決められたルールを守るとともに、体調管理を求めた。

生徒と関係者の自己紹介で生徒たちは「今回で3年目になる。周りを見て（下級生を）サポートしたい」

「場を和ませたい」「初めて参加する。頑張りたい」など意気込みを述べた。

このあと、グループに分かれて3日間の生活に当たってのルール決めなどを行った。



小平高等養護 オビリンピック

仲間と心通わせ挑戦

苫前商高生と玉入れも

【沼津発】小平高等養護学校（齋藤利文校長）は6月23日、同校で「第28回体育大会」オビリンピックを開催した。全校生徒29人が参加。ソフトボール投げや学年対抗選抜リレーを実施。また、苫前商業高校（佐藤恵一校長）との交流競技で玉入れを行うなど交流を深めた。写真＝

大会は、口田取の組んで

の事態でも学校の学びを止めないリモート学習の対応やICT教育支援員の配置を通して教職員によるICT教育の指導力向上を推進していく。

教職員の働き方改革につ

いる体力づくりの成果を披露するとともに、団結力を高めることがねらい。毎年、苫前商業高の生徒らが大会の運営支援などに当たっていたことから、交流を深めるために苫前商業高との交流競技も実施した。



この日、齋藤校長があいさつ。挑戦してほしいこととして「持っている力を出し切る」「仲間と心を合わせる」「きょうの自分が一番良かった」と言えるよう気持ちを込めて参加すること」の3点を求めた。

大会では100メートルや長距離走、ソフトボール投げ、学年対抗選抜リレーなどを実施。苫前商業高の生徒6人と教職員4人が大会の運営支援や応援など大会を盛り上げた。また、

交流競技では小平高等養護と苫前商業高の混合チームで玉入れを行うなど交流を深めた。

町村版 ☆ 北から南から

カズノコの加工作業体験

2年生 ほ場でカボチャ苗植えも

【町村版】町村版の2年生、3年生が、7月7日（土曜日）から8日（日曜日）にかけて、カズノコの加工作業体験を行いました。この体験は、町村版の加工技術を知り、加工技術の向上を図ることを目的としています。体験は、町村版の加工技術を知り、加工技術の向上を図ることを目的としています。



株式会社カズノコと町村版の加工場でカズノコの加工作業体験の様子

交通事故防止の願いを込め 園児がヒマワリの種植える

町村版の花と再会楽しみに



町村版の園児がヒマワリの種植える様子

【町村版】町村版の園児が、7月7日（土曜日）から8日（日曜日）にかけて、ヒマワリの種植えを行いました。この活動は、交通事故防止の願いを込め、園児がヒマワリの種植えを行いました。この活動は、交通事故防止の願いを込め、園児がヒマワリの種植えを行いました。

町村版の園児が、7月7日（土曜日）から8日（日曜日）にかけて、ヒマワリの種植えを行いました。この活動は、交通事故防止の願いを込め、園児がヒマワリの種植えを行いました。

水辺の景色楽しむ

町村版の園児が優雅な水上旅



町村版の園児が優雅な水上旅の様子

【町村版】町村版の園児が、7月7日（土曜日）から8日（日曜日）にかけて、水辺の景色を楽しむ水上旅を行いました。この活動は、水辺の景色を楽しむ水上旅を行いました。

町村版の園児が、7月7日（土曜日）から8日（日曜日）にかけて、水辺の景色を楽しむ水上旅を行いました。この活動は、水辺の景色を楽しむ水上旅を行いました。

日刊留萌新聞

2023年(令和5年)

7月13日 木曜日

発行所/株留萌新聞社 〒077-0007 留萌市栄町2丁目8-23 電話(0164)42-5555 FAX(0164)43-5550

15日にあんどん行列

留萌市立
学校祭 建設協会が1基提供

【苫前】苫前建設協会(奥山和彦会長)は11日、社会貢献事業の一環として苫前商業高校(佐藤恵一校長)に新たなあんどん1基などを提供した。同校生徒たちは、15日に実施する学校祭前夜祭のあんどん行列に向け、あんどんを製作するなど準備を進めている。

あんどん行列は、令和3年の学校祭で21年ぶりに復活。3年は生徒が製作した1基のみだったが、4年は地元青年らで構成する「未来ビジョンミートイング」メンバーが、同校学校祭支援の一環として製作した1基が加わって2基に。同校を発着点に、古丹別市街地を巡った。4年には、順路途中の町公民館前で生徒たちがYOSAKOIソーラン演舞も披露した。

同協会では、地域を盛り上げようと頑張る同校を応援しようと、製作した1基のあんどんを寄贈。加えて、これまでの2基の土台を引き継ぎ、あんどんを製作する生徒たちに雨が降っ



11日に行われた苫前建設協会によるあんどんなどの引き渡し式

奥山会長は「一生懸命な生徒たちを少しでも応援したかった。建設業にも理解を深めてもらえれば」と話していた。

3基のあんどんは、いずれも高さ2・5メートル、幅、奥行き各2メートルの大きさ。4面それぞれイラストを描いた布を貼り付ける灯籠型のあんどんにする予定で、和をテーマに生徒たちが製作に励んでいる。

計3基のあんどんが並ぶ今年のおんどん行列は15

日。午後4時半から同校前で開祭式や吹奏楽部による演奏が行われたあと、午後7時ごろに同校を出発し、セイコーマート古丹別店やJAるもい苫前支所、町公民館などを巡り、古丹別地区を巡行。途中立ち寄る町公民館では、同7時40分ごろから生徒たちがYOSAKOIソーラン演舞を披露する。

本祭となる16日は、午前10時から同校校舎内で模擬店を行うほか、生徒たちによるダンスや劇といったクラスパフォーマンスが披露される。

(雪田康一郎)

北海道建設新聞

2023年
(令和5年)

7月13日
木曜日

HOKKAIDO
KENSETSU
SHIMBUN.

発行所
北海道建設新聞社
〒060-0004札幌市中央区
北4条西19丁目1番地11
TEL(011)611-6311
FAX(011)621-2913

苫前商高へあんどん山車提供



苫前建協

苫前建設協会は11日、苫前商高の生徒から依頼を受けて制作した、あんどん山車の引き渡し式を開いた。学校祭行事を応援しようと地元業者が一肌脱いだ形だ。

学祭行事に地元業者が一肌脱ぐ

同高生徒によるあんどん行列は、生徒らが1基目を作った2021年度の学校祭から始まった。22年度には町内で人口減少対策などに注力する町未来ビジョンミーティングの協力を得て2基目が出来上がった。

今回の制作で、山車は3基となった。台車部分を含む高さは3段で、幅1・5段、高さ2・5段のあんどんが乗っている。同建協17社のうち、協和建設(本社・苫前)や北開建設工業(同)、山崎電気(同)など6社が力を

合わせて作り上げた。引き渡し式は橋場産業(本社・苫前)の倉庫で実施。学校祭実行委員長を務める吉村一朗さんが奥山和彦会長に感謝の言葉を伝えた。生徒会長の嶋田開さんは「忙しい中、私たちのために作っていただき大変ありがたい」と話していた。

奥山会長は「地元の高校生のために建設業として少しでも携わることができれば」と依頼を引き受けた経緯を述べ、業界に關心を持つ生徒が増えることを期待した。

あんどん山車の前に立つ奥山会長(右から4人目)

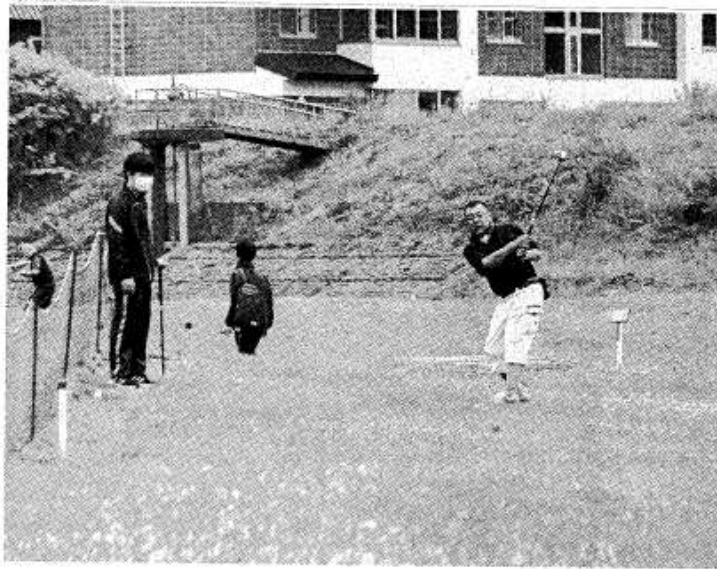
生徒たちは15日の午後7時に学校を出発し、町内を練り歩く。(留萌)

パークゴルフで親睦深める 4年ぶりに焼肉囲い交流も

苫前商高生と同校後援会

【苫前】苫前商業高等学校大会が、7日午前9時から校後援会（伊藤正美会長）古丹別リバーサイドパーク主催の令和5年度苫前商業ゴルフ場で開かれ、苫前商業高等学校交流パークゴルフ業高校（佐藤恵一校長）の

古丹別リバーサイドパークゴルフ場で開かれた令和5年度苫前商業高等学校交流パークゴルフ大会生徒や同後援会の役員らが親睦を深めた。高校生と後援会の交流事業として町商工会（渡部和人会長）と共催し、毎年こ



の時期に開催している恒例の行事。この日は、同校の生徒や教職員、商工会役員や女性部員など合わせて約60人が参加した。

開会式では、ルール説明のあと、苫前町のイメージキャラクター「くまだとまお」による始球式が行われたほか、とまお君を囲んで参加者全員で記念撮影。

終了後、参加者は3、4人ずつでグループを作り、南北コースに分かれて18ホールをラウンドした。

交流が目的とあって、勝負は二の次に、会話を弾ませながら和気あいあいとプレー。クラブを手に快音を響かせていた。

終了後は、橋場産業株式会社（本社・苫前町、奥山和彦社長）車庫で、コロナ禍前は恒例となっていた食事会を4年ぶりに開催。

参加者は、焼き台を囲みシンギスカンに舌鼓を打ちながら大会を振り返るなど、交流のひとつを過ごしていた。（雪田康一郎）

あんどん行列が雨で中止も 演舞披露し地域住民沸かす

【苫前商業
高等学校祭】模
擬店なども楽し
む

【苫前】苫前商業高校（佐藤一校長、生徒30人）の第57回苫前祭が7月15、16の両日、同校で開かれた。15日は悪天候のため予定さ



地域住民を楽しませた苫前商業高校生徒による
YOSAKOIソーラン演舞

日、校内で模擬店などが行われ、あんどん行列は中止となったが、同校体育館で生徒たちがYOSAKOIソーラン演舞を披露。16日は校内で模擬店などが行われ、あんどん行列は中止となった。今年このテーマは「花鳥諷詠」The sky is the limit。15日のあんどん行列は、3基の灯籠型のアンドンが午後7時に同校を出発し、古丹別地区を練り歩く予定だったが、降り止まない雨にやむを得ず中止。同7時半

から同校体育館で、生徒たちによるYOSAKOIソーラン演舞が披露された。鳴子を手に、大きな掛け声を上げながら踊る生徒たち、見守る父母、後輩の応援に駆け付けた卒業生から大きな拍手が送られた。

本祭の16日は、午前10時から校内で模擬店やフリーマーケットなどを実施。ヨ一ヨ一釣りや射的の縁日コーナーも設けられ、来校者が楽しいひとときを過ごした。

（雪田康一郎）

令和 5 年 7 月 28 日 【金曜日】

苫前商高

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）では6月、清掃ボランティアやビジネスマナー講座など様々な取組を実施した。

清掃ボランティア
地域の環境を美化

6月中旬、町内の公民館やスポーツセンター、バスターミナルの清掃を行った。

道内各校
さまざまな
取組紹介

た。全校生徒30人が参加。窓拭きや周辺のごみ拾いなど地域の環境美化に取り組んだ。

取組は、社会の一員としての自覚や地域に対する郷土愛を持たせるとともに、自発的に奉仕活動に取り組む意識を持たせることがねらい。毎年、夏季・冬季に実施している。

全校生徒30人が3班に分かれて公民館やスポーツセ



ンター、バスターミナルで清掃活動に取り組んだ。うち公民館では苫前町イメーシキョラクターの「くまだとまお」君と共に窓を拭いた。

生徒たちは町民が快適に施設を使用でき、また観光客が町はきれいな街だとい

う印象を持ってもらえるように丁寧に窓拭きやごみ拾いなどに取り組んだ。

販売実習会に向け
マナー講座を開催

6月中旬、ビジネスマナー講座を実施した。全校生徒30人が参加。9月の販



売実習会に向けて陳列のこつや接客方法などを学んだ。

9月2日に札幌市大通B I S S Eで販売実習会が行われることから、その準備に向けて実施したもの。

町商工会の渡部和人会長が、過去の苫前商業高校販売実習会の写真を提示しながら陳列のポイントや客を引き付けるこつなどを説明。また「限定」「売り切れ」などという言葉で購買意欲を高めるような手法も紹介した。

販売実演では生徒それぞれが販売会に向けて元気づく接客した。

苫前商高など 自転車ツーリング

仲間と共に196km走破 地域の支援受け6市町巡る

【苫前免】苫前商業高校（佐藤恵一校長）と苫前町教委は7月25日から3日間、沼南市や増毛町、沼田町など6市町で自転車ツーリング事業を実施した。同校生徒13人が参加。仲間と共に自転車で196kmの道のりを走破した。写真＝

事業は高校生自身が行程・内容などの企画を地域住民と考え実践するもの。企画立案能力の向上とともに、

に、事業の実施から終了までの達成感などを体験し、生徒同士の連帯感や自己有用感などを高めることがねらい。

また、町内の苫前商業高校の存続の一助となるよう、高校と町教委、地域団体が連携するなど同校を対外的にPRする機会とした。

実施に当たっては地域住民と共にツーリングのルートや日程などを決めたほか、クラウドファンディング



クラウドファンディングで資金を集めた。

出発式では佐藤校長があいさつ。事業の実施に当たって協力いただいた関係者に感謝の気持ちを述べたほか、生徒たちに対して「ク

クラウドファンディングなど地域の皆さんの支援を励みに2泊3日を過ごしてほしい」と呼びかけた。

また、苫前町の福士敦朗町長は事業について「これからの高校生活や人生の思い出になる。皆さんの支援を受けて安全に戻ってきてほしい」と話した。

このあと、13人の生徒はサポートスタッフと共に同校を出発。3日間で沼南市や増毛町、沼田町など6市町を回り、196kmの道のりを走破した。

高校生 留学に実習 熱い夏

NZでハカ 国際交流

■苫前商の秋山さん、高橋さん



短期留学の成果を報告し、お土産を福士町長（左）に手渡した高橋さん（右）と秋山さん

【苫前】夏休み中にニュージーランドに短期留学した苫前商高2年の秋山美海さんと高橋大和さんが、福士敦朗町長に留学の成果を報告した。

2人は7月29日から8月10日まで、ニュージーランドのオークランドでそれぞれホームステイしながら現地の語学学校に通った。22日に町役場を訪れた2人は福士町長に、お土産として同国の国鳥キウィのぬいぐるみを手渡した。秋山さんは「まちですれ違ふ人たちが明るくあいさつしてくれる

のが印象的でした」と話し、高橋さんは、現地の高校生が伝統舞踊の「ハカ」を披露してくれたことに「すごい迫力に圧倒されました」と話した。

ホームステイ先も親切で庭園や動物園に行ったりバーベキューを楽しんだりしたという。2人は「英語でコミュニケーションして、とてもいい経験になりました」と声をそろえた。福士町長は「仲良く国際交流できるのも、平和あつてこそ、この重みを感じてほしい」と声をかけた。

（森麻子）

接客の心得 CAから

■苫前商 販売会前に



時重さん（右）のアドバイスを聞きながら話し方を学ぶ苫前商高生

【苫前】苫前商高が、現役の客室乗務員（CA）から接客のマナーを学ぶ講座を開いた。9月に札幌市などで販売実習会を開くのを前に、生徒28人があいさつの心得や接客について、実習を交えて学んだ。

22日に開催。日本航空（JAL）社員が地域の魅力発掘と活性化を手伝う「ふるさと応援隊」北海道担当の時重政子さんが講師を務めた。CAとして国内線や国際線に業務している時重さんは「接客の基本は身だしなみ、表情、あいさつ、立

ち居振る舞い、話し方の五つが大切」と強調。第一印象が良くなるあいさつや話し方は「相手の目を見て、思いやる気持ちが伝わるように表現して」と説明した。

その上で時重さんは「マナーやあいさつの基本を知って、日常や学校生活でぜひ実践してください」と生徒たちに呼びかけた。講座を終えた西田春菜さん（3年）は「人と話すときの態度や表情などがよく分かった。元気にあいさつすることを心がけたい」と話していた。

販売実習会は9月2日、札幌市中央区の大通ビッセ地下と同高の2カ所で実施。生徒が特産品などを売し、同町をPRする。（森麻子）

TOMACAFEにぎわう

【苫前】 高校生が授業の成果実践

【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長、生徒29人)の高校生カフェ「TOMACAFE」が、26日午前10時から町字古丹別の上田ファーム株式会社(上田卓司代表取締役)店舗兼加工場で開かれ、焼きたてパンなどを買い求める地域住民にぎわった。

この日は、町内でカボチャなどの農産物を製造、加工、販売を行う同社の協力を得て、農作業の繁忙期には開店しない同店舗で特別に焼きたてパンを提供してもらう形で実施。

また、地元高校生たちの頑張りを応援しようと、同店舗東に隣接する有限会社苫前自動車整備工業が同社前駐車場を休憩場所に、

同店舗と国道239号を隔て北に隣接する有限会社川



上田ファーム株式会社店舗兼加工場で開かれた
苫前商業高校の高校生カフェ「TOMACAFE」

森が同社前を臨時駐車場に、北東に隣接する渡部工業株式会社の駐車場も臨時駐車場としてそれぞれ貸し出した。また、苫前町のイメージキャラクター「くま

だともお」も応援に駆けつけた。

店内では、バターロールやメロンパン、ベーグル、ミニピザなどの焼きたてパンに加えて、同校卒業生が店長を務める喫茶店の豆を使用したコーヒーをはじめとしたドリンク類を販売した。

開店から続々と地域住民らが訪れ、生徒たちは会計や商品の陳列に大忙しながらも丁寧な接客を心掛けるなど、日ごろの授業の成果を実践していた。

(雪田康一郎)

9月2日に苫前商業高と 札幌市で同時に販売実習

【苫前】苫前商業高校 される。

(佐藤恵一校長)の販売実習「苫前市場」は、9月2日午前10時から同校と、札幌市中央区の大通ビッセ地下2階の2カ所で同時開催

ことが目的。生徒たちは、この日に向けて町内各事業所を訪問して販売商品の仕入れに奮闘したほか、日本航空株式会社や明治安田生命保険相互会社から講師を招き、接客マナーを学ぶなど、準備を進めてきた。

当日は、1年生6人と2年生6人が同校、2年生11人と3年生6人が大通りビッセで販売を担当する。

販売品目は、米粉を使ったカステラ「もちもち米ベ」や、カボチャのパウンドケーキ「ドラベジケーキ」の同校開発商品をはじめ、苫前産なつぼし、ポイルホタテや開きホッケ、「かぼちゃ団子」、「タコのおかしらカレー」、生徒たちが地域農業者の協力を得て、6月に苗植えしたカボチャなどを2カ所共通で販売。

大通りビッセでは、イクラしょうゆ漬け、ミニトマトジュース、とままえメロンを限定販売する。

(雪田康一郎)

9月2日に苫前商業高校で開かれる苫前市場のチラシ

苫前市場
～農家の良品、集のまじり～

日時：令和5年9月2日(土)10:00～14:00
会場：苫前商業高等学校

北海道苫前商業高等学校
販売実習会

苫前商業高校
ホームページ
インスタグラム

カボチャの収穫を体験

苫前商業高校 2年生 特産品に理解を深める

【苫前】苫前商業高校 17人が29日、町九重地区に「カボチャ「くり將軍」の収
(佐藤恵一校長)の2年生 ある仲谷康弘さんのほ場で 穫を体験し、生産現場で農



仲谷さんの畑でカボチャの収穫作業に汗を流す苫前商業高校の2年生たち

業に親しみながら、特産品について理解を深めた。

カボチャの収穫は、2年生を対象に、マチの漁業や農業を学ぶとともに、実際に生産者の下へ出向き、見学などをしながら商品がどのようなルートを巡って消費者の手に渡るのかを調査することを目的に、各種活動を行っている「地域学オロンデザイン」の一環として実施。

雲間から青空がのぞく穏やかな天候に恵まれたこの日は、6月に苗植えを行ったほ場で、収穫作業に取り組んだ。

生徒たちは、仲谷さんから緑色の表面が一部黄色に変わっていたり、ヘタが乾いているなど、収穫に適したカボチャの見分け方を学んだあと、作業を開始。

畑にしゃがみ込み、つるの中からカボチャを取り出

す。取り出したカボチャのヘタをはさみで整える。ブラシで泥を取り除く。タオルで磨く係など、役割分担しながらカボチャ

を収穫。さわやかな汗を流しながら、達成感溢れる笑顔を見せていた。

収穫したカボチャの一部は、9月2日に同校と、札

幌市中央区の大通ビッセ地下2階の2カ所で同時開催する販売実習「苫前市場」で、販売される。

(雪田康一郎)

道内各校 さまざまな 取組紹介

中学生体験入学 授業や寮を見学

8月下旬、同校で中学生体験入学を行った。管内外の中学生31人とその保護者10人が参加。学校概要の説



明、授業や寮を見学するなど同校について理解を深めた。

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）では8、9月、中学生の体験入学やビジネスマナー講座、販売実習会を実施した。

苫前商高

体験入学に当たっては生徒会役員が中学生や保護者の案内に当たったほか、アンケートの回収を行った。オリエンテーションでは、生徒会役員が自転車ツーリング事業や商品販売会など地域の協力を得ながら生徒自らが取り組む活動について紹介。また、担当教諭が学校の概要を説明した。

このあと、パソコンを使用した簿記の授業を実施。「経済活動と法」の授業では、商業において法律を学ぶ重要性について説明した上で、法律に関するクイズを出題した。



販売実習会に向け 接客方法など学ぶ

の概要について紹介。同校生徒も日頃の生活について説明した。

取り方などを学んだ。9月に販売実習会を予定していることから、接客方法などを学ぶために同講座を実施した。講師は日本航空顧客室乗務員の時重政子氏。話し方や場に応じたコミュニケーションの取り方、日常的に使用しているものの実は間違っている言葉遣いなどについて説明を受けた。

販売実習会は「商業科で習得してきた知識と技能を、実践的な販売の場で活用し、課題を今後の学習へ役立てる」商品の仕入れや事前学習を通して、町の特色と特産物に関する知識を深めることによって、地域住民や苫前町、そこに位置する母校への愛着を深める」などがねらい。札幌では2年生11人と3

札幌など2カ所で 販売会・苫前市場

9月上旬、札幌市内の大通ピッセと同校で販売実習会「苫前市場」を開催した。生徒29人が参加。生徒による開発商品や苫前町の特産物を販売した。

また、今後の販売実習に向けて来店者へのアンケート調査を実施。販売会を知った理由や購入商品、生徒の接客態度などを聞いた。



進路選択の参考に

苫前商業 高 校 中学生が体験入学

【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長)の体験入学が、8月25日午後0時50分から同校で行われ、留萌管内外から参加した中学生が同校の魅力に触れ、進路の参考にした。

高校進学を希望する中学生に、志望校選択に当たり同校の教育について理解を深めてもらうとうと実施。平成30年度に地域連携特例校の指定を受けている同校は、5月1日現在の1年

生が2年連続で10人未満となった場合に再編整備の対象となる。今年度の入学者数は、前年度の23人を17人下回る6人。7人だった令和3年度以来、再び黄信号が点灯している。

同校では、生徒の確保と学校の存続に向け、今年5月に初めての試みとして苫前中学校で学校説明会を開催。在学中の高校生が、直接中学校を訪れ中学生に対し魅力を伝えたほか、道内外各中学校への訪問活動を強化している。

この日の体験入学には、苫前町をはじめ留萌市、増毛町、遠別町の留萌管内に加え、札幌市や旭川市、稚内市など管内外合わせて9



苫前商業高校で授業を体験する留萌管内外の中学生たち

校から28人の中学生が保護者や引率教諭と共に参加した。

はじめに、同校体育館でオリエンテーションを実施。同校生徒会長による学

校紹介では、生徒全員が所属し、自転車ツーリングや高校生力フェなどを実施するなど、地域の協力を受け

ながらさまざまなイベントに参加する商業部の活動内容などを説明。

同校教育の概要説明では、担当教諭が「前年度は卒業生12人中、4人が4年

制大学や専門学校に進学しており、就職だけでなく進学にも強い」、「少人数ならではの手厚い指導、指定校

推薦枠に選ばれやすいことも魅力。一昨年は北見工業大学に進学した生徒もいる」などと入学のメリットをPRした。

終了後、中学生は2グループに分かれ、簿記などの授業を受けるなどして苫前商高ならではの魅力を体験していた。(雪田康一郎)

被災地の体験伝える 厚真高2年加藤さん、苫前商高生に

会員限定記事

2023年10月2日 19:50

あとで読む



胆振東部地震発生当時を振り返り、オンラインを通じて苫前商業高の生徒に話す加藤さん



【厚真】胆振東部地震の被災地を案内するガイド活動を行う厚真高2年の加藤迅（じん）さんは2日、留萌管内苫前町の苫前商業高の全校生徒29人に、自身の被災体験や視察した東日本大震災の被災地の様子についてオンラインで講演した。

高校生の被災地ガイドは地震の記憶を次世代につなげようと、厚真町観光協会が今年募り、加藤さんはじめ厚真高生3人で活動を始めた。苫前商業高がこの取り組みを知り、生徒の防災意識向上のため講演を依頼した。

加藤さんは苫小牧市の自宅で地震被害に遭った5年前を振り返り、「立っていることができないほどの揺れで、心臓がバクバクし、怖かった。避難経路を確保するため無我夢中で玄関のドアを開けた」と話した。

今年8月に宮城県を訪れ、石巻市の大川小や気仙沼市などで、東日本大震災の語り部たちから当時の話や活動への思いを聞いた経験を語り、「心に残った深すぎる傷は簡単には癒えない。常に最悪な状況を想定し、備えることが大切」と強調した。

苫前商業高の生徒からは「災害が起きた時にどう行動すれば良いか勉強になった」、「防災備蓄の大切さを感じた」などの声が上がった。

被災地ガイドは、厚真町を訪れた札幌の高校生らに行った9月9日以来2度目。加藤さんは「思いを伝えるのは難しかったが、良い反応をもらえてうれしかった。今後もできることから始めていきたい」と話した。（小林彩乃）

牧草重い！ 牛はかわいい 苫前商業高生が酪農体験

会員限定記事

2023年10月3日 19:37

あとで読む



牛舎で作業に汗を流す苫前商高生



【苫前】苫前商業高の2年生17人が地元の歴史や産業について学ぶ「地域学」の一環で、町内の牧場を訪れ、酪農作業を体験した。

町内岩見地区にあるメガファーム（大規模牧場）の箱柳牧場で9月27日に実施。同牧場は約300頭のホルスタインを飼育し、生乳を生産している。

ジャージーに長靴姿の生徒たちは、同牧場の丹羽秀樹社長の案内で牛舎に入った。大きな牛にひるみながら、スコップを手に、牛ふんの処理や餌やり作業などを手伝った。友だちと協力しながら作業を体験した北田梨花子さんは「牧草はめっちゃ重いです」と汗を拭っていた。

子牛に牧草を与える作業を体験した粕谷寿至さんは「最初怖かったけど、やってみると牛はかわいい。愛着がわきますね」と笑顔だった。丹羽社長は「苫前商高生の進路選択の参考になれば」と話した。（森麻子）

苫前商高に入学を 苫前中の学校祭で初のPR

会員限定記事

2023年10月10日 19:54(10月10日 20:27更新)

あとで読む



苫前中の学校祭で苫前商高の魅力をPRする同高OBで札幌学院大生の大元さん



【苫前】今春、古丹別中と統合した苫前中（西山智章校長、63人）の学校祭「苫中祭」が、同校で開かれた。生徒数減に悩む苫前商高が初めて参加し、同高への入学をアピールした。

7日に開催。苫前商高は、ブースを設けて町特産のカボチャを使ったスイーツ「かぼタルト」「カボレーヌ」などを販売したほか、同高の活動をパネルでPRした。

メイン会場の体育館では、同高OBの大元祐征さん（札幌学院大2年）が「小規模校ならではの、きめ細かい指導や、学校祭や販売実習など数多い行事が苫前商高の良さ。3年間は一生忘れられない時間」と学校の魅力をPR。「ぜひ進路の選択肢に加えてほしい」と苫前中生や保護者に呼びかけた。

苫前中と苫前商高のコラボは初めて。苫前中の西山校長は「中学生や保護者に響いたので」と話していた。（森麻子）

苫前商高

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）では9、10月、第2回学校運営協議会や1日防災学校を実施した。

第2回学校運営協議会 生徒募集へ協議

9月下旬、同校で第2回学校運営協議会を開いた。委員や同僚職員、留萌教育局の職員を合わせて16人が参加。佐藤校長が生徒募集の取組内容などについて説明したほか、質疑応答や情報交換をするなど地域と一体となった学校づくりに向けて連携を深めた。

道内各校 さまざまな 取組紹介



佐藤校長が道立学校における学校運営協議会の設置等に関する教育委員会規則や5年度公立高校配置計画地域別検討協議会、生徒募集の取組内容について説明。

質疑応答・意見交換では、生徒募集について「苫

前中での説明会が効果的だったと聞いている。複数回できたらい」「札幌圏・留萌圏で説明内容やアピールポイントを変えてはどうか」など、町内の高校生を増やすため「町内生が通いやすいような補助や支援を何かできないか」「町内のスクールバス混乗という方法はどうか」などとそれぞれ意見が出た。

1日防災学校で 避難所体験など

10月上旬、同校体育館で1日防災学校を開催した。同校生徒29人が参加。厚真高校の生徒による震災の説明や避難所体験、避難訓練などを通して災害時に身を守る行動について理解を深めた。

取組は、生徒の防災意識を高め、自然災害に対する理解や災害時における危険予測およびその回避の能力を身に付け、自他の命を守る



る意識と必要な行動の仕方を身に付けることをねらいとした。

オンラインで厚真高校生や厚真町観光協会の担当者が北海道胆振東部地震の様子や日頃の備えについて説明。災害の経験を伝える被災地ガイドである厚真高校生がガイドに取り組み思いも語った。

また、段ボールベッドの組み立てや簡易テントの設置、非常食の試食を実施。洪水を想定して屋上へ避難し、避難経路で危険箇所がないか話し合った。

見て聞いて食べて備える

苫前商業高で一日防災学校

【苫前】苫前商業高校(佐)同校で開かれ、生徒たちが藤恵一校長、生徒29人の防災について見て聞いて食

一日防災学校がこのほど、べて学び、万一の事態に備えた。防災について学び、地域防災力の向上を図ることなどを目的に開催。町の防災担当者による出前授業や避難所開設訓練、非常食の試食、避難訓練が行われた。



一日防災学校で非常食を試食する苫前商業高校の生徒たち

避難所開設訓練では、生徒たちが役割分担しながら段ボールベッドと災害活動用多目的テントを組み立てたほか、水または湯を注ぐだけで食べられる「アルファ化米」を使った非常食を試食。

町職員は「1年に1回、食べる機会を設け、新しい非常食に更新することが大切。町でも備蓄はしているが、数には限りがある。皆さんも備蓄するようにしてほしい」と呼び掛けた。

そのほか、胆振管内厚真町の厚真高校の生徒とのオンライン交流を実施。苫前商業高校の生徒たちは、厚真高校の生徒が話す北海道胆振東部地震の被災体験をはじめ、被災地を案内するガイド活動について熱心に耳を傾けるなど、さまざまな体験を通して万一の事態に万全を期した。

(雪田康一郎)

地元進学もいいもんだよー！ 留萌管内の高校、支援学校パネル展 教育局

会員限定記事

2023年11月15日 20:15

あとで読む



留萌管内の公立高校・特別支援学校の特色について紹介するパネル展



【留萌】留萌管内の公立高校・特別支援学校の入学者増に向け、留萌教育局が各校の取り組みを紹介するパネル展を留萌合同庁舎1階道民ホールで開いている。

会場では、管内公立高6校、特別支援学校1校に関するパネルの展示やパンフレットの配布を行っている。3年間の教育課程をはじめ、学校行事や部活動、卒業生の進路実績などを伝えるほか、各校の特色として苫前商業高の自転車ツーリングや、遠別農業高のサフォーク羊の6次化などの取り組みも紹介する。

同教育局によると、本年度の管内公立高入学者数は、定員480人に対し265人。人口減や中学生の管外流出の影響もあり、全6校で定員割れとなっている。同教育局企画総務課は「進学を控える小中学生や保護者に足を運んでもらい、将来の学校選びに役立ててほしい」とする。展示は12月4日まで。（吉川幸佑）

道教委が高校生防災サミット 地域防災の担い手に 災害時支援など理解深める



道教委は10月30日、TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前で北海道高校生防災サミットを開催した。全道各地の高校生約190人が集い、地震、津波、火山災害など地域の課題に対応した特色ある防災教育の実践を発表。各学校が今後取り組む「防災アクションプラン」について意見を交わし、地域防災の担い手となる高校生の役割について理解を深めた。同サミットは、令和元年度の「世界津波の日」高校生サミットの成果を受け継ぎ3年度から開始。自他の命を守る資質・能力を身に付け、地域の防災活動や災害時の支援活動における高校生の役割について理解を深めることを目的とする。

集合・オンライン形式で道内の50高校から約190人が参加。道外からは岩手県立大槌高校の生徒が参加した。開会に当たり倉本博史教育長は、共に学び、考え、行動する仲間としての絆を深めるよう期待し「サミットで得た成果を学校、地域、そして全道へと発信し、防災・減災に向けた取組を全道に広げてほしい」とあいさつした。

続いて上磯高校、**苫前商業高校**、伊達開来高校、奥尻高校、霧多布高校、大槌高校の生徒が実践発表。上磯高は防災行動の時系列を整理した「マイタイムライン」の作成、家庭科における災害食の実習など教科をつないだ防災教育を紹介し、地域をつなぐ主軸としての高校生の役割を提起した。

苫前商業高は、町民の被害を減らすため独自に作成したクマのハザードマップ「クママップ」を発表。伊達開来高は有珠山の噴火に備えた校内防災地図の作成を発表するなど地域の特性に応じた実践を取り上げた。

つぎに道教育大学釧路校の境智洋教授が「地域防災の担い手として高校生に期待すること」と題して講演。災害を自分事として捉え、主体的に関わるポイントや実践例を伝え、地域をつなぐ高校生のネットワークに期待を寄せた。

最後に各学校でまとめた防災アクションプランについて協議。生徒会主導による避難体制の整備、交通障害について理解を深める宿泊研修など様々な企画を共有した。

参加生徒は「自然環境の違いで自分たちでは思い浮かばなかった斬新なアイデアを知ることができた」「高校生が避難所を運営することもある。自分事として考えていかなくてはならない」などと感想を述べ、新たな学びや気づきを得た様子だった。

生産者の苦勞など学ぶ 苫前商高 乳製品工場見学

【留萌発】苫前商業高校(佐藤恵一校長)は11月上旬、羽幌町の(株)ダイマル乳品の工場見学を行った。2年生15人が参加。工場見学を通して加工の工程や商品



づくりについて理解を深めた「写真」。

同校の学校設定科目「オロロンデザイン」の一環として実施したもの。商業高校としてビジネスを学ぶことに加え、苫前町の地域について学びながら、1次産業への理解を深めることを目的としている。

これまで生徒たちは牧場での酪農実習や水産加工場での実習を体験。自分たちが普段食べている食材がどのように生産されているのかを知った。また、将来ビジネスに携わる者として商品になるまでの流れや生産者の苦勞などを学んだ。

工場見学では、ダイマル乳品がコンビニエンスストアのセイコーマートで販売されるアイスクリームを生産していることから、担当者(セイコーマートが道内最大規模の店舗数であること、近年では本州からも注目されているコンビニエンスストアであることを説明。また、北海道各地域の農作物を活用していること、苫前町産のカボチャやメロンを使ったアイスクリームを販売していることも紹介した。

課題研究やインターン報告 特産品の商品開発案も 苫前商 高生

会員限定記事

2023年12月2日 18:52

あとで読む



課題研究やインターンシップについて報告する苫前商高生



【苫前】苫前商業高（佐藤恵一校長、29人）が日ごろの学習の成果を父母や地域住民に報告する体験発表会が2日、同校体育館で開かれた。課題研究やインターンシップ、海外留学などの成果をスライドなどを使い、報告した。

3年生は課題研究について発表。商品企画班は苫前町特産のメロンを使ったスイーツの新商品「メロンフラベチーノ」開発に取り組んだ。シロップも手作りするなど試行錯誤し、完成したフラベチーノの商品化に取り組みたいとした。

2年生は町内外の企業や温泉宿泊施設、認定こども園、町役場などでのインターンシップを報告。温泉の清掃などを体験し「裏方の重要性を再認識した。将来の職業選択に生かしたい」と締めくくった。

1年生は町をよく知るために町内の牧場や風力発電施設、北るもい漁協など施設見学に行き「まちのことをよく知ることができた」と話した。

生徒たちの堂々とした発表ぶりに、集まった保護者らは大きな拍手を送っていた。（森麻子）

地元生徒入学「不可欠だ」

開拓地の学校 苦闘の未来は

上

には理由がある。
「母校が閉校の危機であり、来年度の入学希望者が少ないと、募集停止になってしまう」と、募集停止になってしまう。

学校に集まった保護者らに状況を説明すると、「この訴えかけた」。

「苦闘に地元の生徒が入ることでも今後苦闘で学費環境を維持できるし、町と一体となっていく必要がある」と。

「生徒の目標で伝えたい」そんな気持ちで、この大分県の大分市にある開拓地の学校で、10月7日、マイクを握った大元祐征(20)は町内にある苦闘商業高校の卒業生だ。

この日、学校が閉校を告げられていた中学校に大元が訪れた。大元は中学時代から、商業の



苦闘商業高校の存続を訴え、中学校の学費でスピーチした大元祐征さん。10月7日、苦闘町の苦闘中学校

中学の学校祭 高校存続へ訴え



苦闘商業高校＝8月26日、苦闘町

今の自分の原点

とはいえ、苦闘町なんてこれまで名前すら聞いたことがない。門限や入居時間といった寮のルールも、当初はわからずに戸惑った。寮の先

勤に異味があった。親元を離れて一人暮らしは初めて。個室の寮がある苦闘への入学を決めた。

人数が少ない分、学校行事では生徒一人ひとりが意見を言える。出かけることも求められる。生徒会に所属していた大元は、企画立案から携わった学

校祭で、自ら主導して地域を

「苦闘での日々は、自分を育ててくれた。忘れられない時間。いまの自分につながっているし、いまの自分をつくってくれた」

そんな感謝も込めて、苦闘



地元中学校の学費で、販売コーナーを設けた苦闘商業高校の学校祭。10月7日、苦闘町

欠けていた視点

スピーチを終えた大元は、苦闘で校長を務める佐藤恵一(58)が来賓で迎え入れた。その後、大元と佐藤は「卒業生だからこそ伝えたい」と、苦闘に力があったとたたえた。

「生徒の目標で伝えたい」と言っていた大元の言葉と重な

るようになった。

今回のスピーチを機にしたのは佐藤だ。

佐藤は昨年、苦闘に校長として赴任。自宅は札幌市厚別区で、苦闘での勤務は初めてとなる。いわゆる「まき道」だ。

佐藤は赴任すると、周辺自治体だけでなく札幌や旭川の中学校を回り、苦闘への入学を呼びかけた。しつかりと情報発信できた充実感もあった。しかし、今年春の新生入生は8人にとどまった。

進立高校は、2年連続で入学希望者が1府になると開校対象となる。「フイローカード」をもらった形だ。「たぐさん」回ったから、生徒が来るだろうと思っていた。考えが甘かった」と佐藤は振り返る。

苦闘はこれまで、地域と密着した少人数教育を売りに、

都道府県の枠を超えて公立高校へ入学できる全国生徒募集制度を活用。今年からは「地域みらい留学」も採り入れて、新入生を全国から受け入れるためのPRも始めた。

だが、佐藤は重要な視点が欠けているように感じた。町内の中学生を苦闘に入学させる取り組みだ。全校生徒20人のうち、町内出身者は8人と少なくなる。

「町外からの入学生だけでは、安定した入学希望者は確保できない。もっと町内の子と私たち入学してもらわないと」

そう考えた佐藤は「地域」ともにある学校にするためには、地元の子がいなかったらダメだ」と、町に必要さを訴え続けた。かつて開拓地だった町では、人口減少がすすむ。地元に残る生徒が増えることで、町の将来にもつながると考えるからだ。

そんな気持ちを裏づける正面から受け止めたのが、町教育委員会のある課長だった。

「教務課(田中佐藤)」

来春の入学に向けた進立高

校の募集要項が8日、始まった。閉校の危機にさらされる苦闘商業高校をめぐる関係者の思いを、2回にわたってお

伝えします。



吉前商業高校の生徒が実施する「苦力フェ」＝8月26日、吉前町

開拓地の学校

吉前町の未来は

下

吉前町では、生徒らが菓子や飲み物を販売する光景が当たり前になってきた。吉前商業高校が実施する「苦力フェ」だ。
8月26日、商店の一角に生徒がブースを構える。また、

地域担う人材のゆりかご

町教委・道立高 タッグへの思い

学校とつながる

さがゆる中、副校長で3年の吉村一朗(18)が大きな声で客を迎えていた。「苦力フェ」や行事で顔見知りになった地元の方は多い」と話す。
「お互いに腰を割って話し合える。森校長あつての吉商、佐藤が投げかけると、森は「ごんたに本書を言ってくれれば校長先生はいなかった」と返す。
道立高校と地元自治体の教育委員会が本来、行政の縦割りがあの中、あまり接点がないのが実情だ。
その般を破りつつある吉前町は今年、佐藤の求めに応じ、入学を呼びかけるための中学校回りに使ったためだ。
森にはこんな手応えもある。「母と学校のつながりが深まったのではない。こ



吉前商業高校の入学パンフレットを手を持つ佐藤恵一校長(左)と、吉前町教育委員会の森哲也課長＝9月1日、札幌市

きた投網だった。「以前は、吉商の入学生がどんな顔をしているのかも全く知らなかった」と振り返る。「とまええ」と名づけたこの地域学が始まる。吉商と町をつなぐきっかけとなった。就労体験に加えて地域との交流を目的にした「苦力フェ」は、取り組みの中で生徒が発表した。
そんな森にとって、新たな出会いが昨年訪れた。吉商の校長に赴任した佐藤恵一(68)だ。
佐藤は赴任直後から、「町がしっかりとやっていると学校を残さない」と訴えた。そのストレートな思いを、誰よりも真面目で受け止めたのが森だった。
「お互いに腰を割って話し合える。森校長あつての吉商、佐藤が投げかけると、森は「ごんたに本書を言ってくれれば校長先生はいなかった」と返す。
道立高校と地元自治体の教育委員会が本来、行政の縦割りがあの中、あまり接点がないのが実情だ。
その般を破りつつある吉前町は今年、佐藤の求めに応じ、入学を呼びかけるための中学校回りに使ったためだ。
森にはこんな手応えもある。「母と学校のつながりが深まったのではない。こ

にきて、生徒たちが積極的に町に出始めてくれるようになった」
何としても残す
日本海に面した吉前町は開拓の町だ。漁業、農業、酪農業が中心。
だが、そんな豊かな土地でも、かつては1万1千人を超えた人口はいま、2700人台まで落ち込んだ。町内に二つあった中学校は今年春に統合。高校も失えば地域の衰退がさらに速みかねない。町関係者が抱える切なる不安だ。
そんな中、今年入学人数は1人にとまり、再び閉校に傾いた「イエローカード」を突きつけられた。
「高校を卒業した後、地元に残って活躍したり、大学を出た後に帰ってきやすい環境づくりを想定している。吉商の存続にあたっては、地元の生徒の入学確保が大きな鍵を握ります」
10月7日にあった吉前中学校の学校祭。吉商の卒業生とともに登壇した教育委員の佐藤(66)は、集まった保護者らに訴えた。
開発は、吉商について「地域の将来を担う人材を育てる大切な存在」と語る。役場には「ここ数年、2人が吉商から就職。大学に通っている卒業

生からも「地域に帰還するために吉前に戻りたい」との声が相次いでいるという。
高齢化がすすむ1次産業にとっても、吉商の存在は高まりつつある。
きっかけは農家の何げない一言だった。「収穫期の人手が足りない」。町が吉商に相談すると、休日に生徒がバイトをするのを許可してくれた。
以来、稲作作業に地元名産・ミニトマトの収穫、選果作業を生徒たちも担ってきた。「ありがたいことに、吉前町を第2のふるさとと想ってくれる生徒が増えている。そのために、卒業後に町に残る働き口をどう確保していくか。何としても吉商を残していかなければいけない」
開発の思いには、娘2人を吉商に通わせた元保護者としての立場も込められている。
＝敬称略(岡田佑樹)＝
学校存続に向けて、来春の入学人数が大きな鍵を握る吉前商業高校。今後も、その動向や関係者の思いを随時お伝えしていきます。



朝日新聞デジタルでは、記者が自身の高校生時代に重ね合わせた取材後記が読めます

苫前商高 体験発表会

学んだ成果を報告

就業体験や課題研究など



住民ら約70人が参加。各学年が企業・施設見学会やインターンシップ、課題研究などを通して学んだ成果を発表した写真。

【留萌発】苫前商業高校(佐藤恵一校長)は12月上旬、同校で体験発表会を開いた。生徒や保護者、地域

表することによって、物事に主体的に取り組む姿勢と表現力を養うとともに、保護者や地域の人々に同校の

教育活動に対する理解を深めてもらう機会とすることが目的。

生徒たちがこれまでの研究の成果を発表。1年生は企業・施設見学会について報告したほか、苫前町の伝統芸能の豊饒太鼓を披露した。

2年生はインターンシップなどについて、3年生は札幌市と苫前町で行った販売実習会や課題研究について成果や課題を発表した。

また、商業部では本年度の活動として生徒がメニュー製作や会場設営、販売を行う苦力フェヤ、196ccを自転車で走破する自転車ツーリング事業について報告した。

ヒグマの危険 地図見て回避

【天北】留萌管内の
苫前商業高校1年生名
人は、苫前町内のヒグ
マと遭遇しやすい危険
な場所を可視化し把握
するため、「苫前町く
まのハザードマップ
「くまっぶ」」を作成
した。

今年、町内でヒグマ
が今まで以上に多く目
撃されている。目撃情
報は把握されている
が、ヒグマの生息地域
と民家、出役場所がま
とめて把握できるハザ
ードマップがないこと
から、生徒らが発案・
作成した。

マップは2020年
から今年までの目撃情
報をマークし、人の生
活範囲とヒグマの生息

苫前商業高生 注意喚起へ 発案し作成

地域の重なる部分が、
ヒグマとの遭遇率が高
いため危険と判断し線
で囲い、注意喚起す
る。

生徒らは留萌総合振
興局が主催した「ヒグ
マ防除・捕獲技術研修
会」に参加。ヒグマの
危険性や害、習性など
について学習し、実
際に目撃した人の状況
なども確認しながら、
マップの作成に挑ん
だ。



苫前町くまのハザードマップ「くまっぶ」の作成（左から右へ）町役場職員、生徒ら

苫前商高の生徒らが 高齢者宅周辺を除雪

【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長)の「冬季ボランティア・除雪」が9日、古丹別地区で行われ、生徒たちが高齢者宅周辺の除雪に励んだ。

地域へ貢献することにより思いやりの心を養うことなどを目的に行っている同校恒例のボランティア活動。夏季は地域の清掃活動を実施しており、例年1、2年生の生徒と教職員が参加している。今年は、生徒21人、教職員9人の合わせて30人が参加した。

ボランティア活動を応援するように穏やかな気候に恵まれたこの日は、午後0時半に同校生徒玄関前に集合。除雪に当たっての注意事項などを聞いたあと、町社会福祉協議会から依頼された3戸ごとに3グループに分かれ、徒歩で対象宅へ向かい作業を開始。



高齢者宅周辺の除雪作業に励む苫前商業高校の生徒や教職員

生徒らが除雪奉仕に汗

【苫前】苫前中学校(西山智章校長)の除雪ボランティア活動が3日、苫前、古丹別両地区で行われ、生徒たちが高齢者宅の除雪に励んだ。

古丹別地区で行われ、生徒たちが高齢者宅の除雪に励んだ。



高齢者宅周辺の除雪作業に取り組む苫前中学校の生徒

も、熱心に作業。窓が隠れてしまうほど積もっていた窓際の雪の山をスコップで崩し、スノーダンフで運び、窓から十分な太陽光が差し込むように改善。3軒とも、周辺はすっきりときれいになり、住民を喜ばせていた。

(雪田康一郎)

除雪ボランティア活動は、同校との統合に伴い令和4年度末で閉校した旧古丹別中時代から続く活動。今年、町社会福祉協議会を通じて依頼を受けた苫前地区2戸、古丹別地区1戸の高齢者宅を対象に実施。両地区合わせて同校生徒や教職員15人が参加した。

この日は、前日までの悪天候から一転、ボランティア活動を応援するように穏やかな気候に恵まれ、両地区とも午後1時半から作業を開始した。

住宅によっては積もったり、屋根から落ちた雪で窓がふさがれてしまっている状態で、参加者は氷混じりの雪に苦戦しながらもスコップで窓際の雪を取り除く作業に奮闘。窓から十分な太陽光が差し込むように改善した。

「あっという間に終わってびっくりです。家の中が明るくなりました。本当にありがたいです」と70代の女性。昨年に続き参加した鈴木聖岳君(2年)は「喜んでいただいて、すごくうれしいです。やって良かったです。来年も参加したいです」と話していた。

(雪田康一郎)

苫前商高

【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長）は1、2月、予餞会や除雪ボランティアを実施した。

予餞会を開催 3年生と交流

1月下旬、同校で予餞会を開催した。3学年の生徒22人が参加。豊饒太鼓の披露や校内大かくれんぼ大会などを通して1・2年生は

3年生と交流を図った。

卒業する3年生を送り出すために実施しているもの。「お世話になった3年生を感謝の気持ちで送り出す」「3年生と1・2年生の最後の交流を図る」をねらいとした。

1年生が豊饒太鼓を披露したほか、校内大かくれんぼ大会やeスポーツ大会などを通して1・2年生は3年生と交流を深めた。

このあと、3年生担任の稲瑞希教諭が制作した3年

予餞会



間の思い出動画を上映。また、生徒一人ひとりに感謝状を手渡した。

除雪ボランティア 高齢者の生活支援

2月9日、苫前町内の古丹別地区で除雪ボランティアを行った。1・2年生21人が参加。高齢者が安心して生活できるよう除雪に取り組んだ。

取組は生徒一人ひとりが地域社会の一員であることを自覚し、地域へ貢献することによって思いやりの心と自尊感情を育むことがねらい。

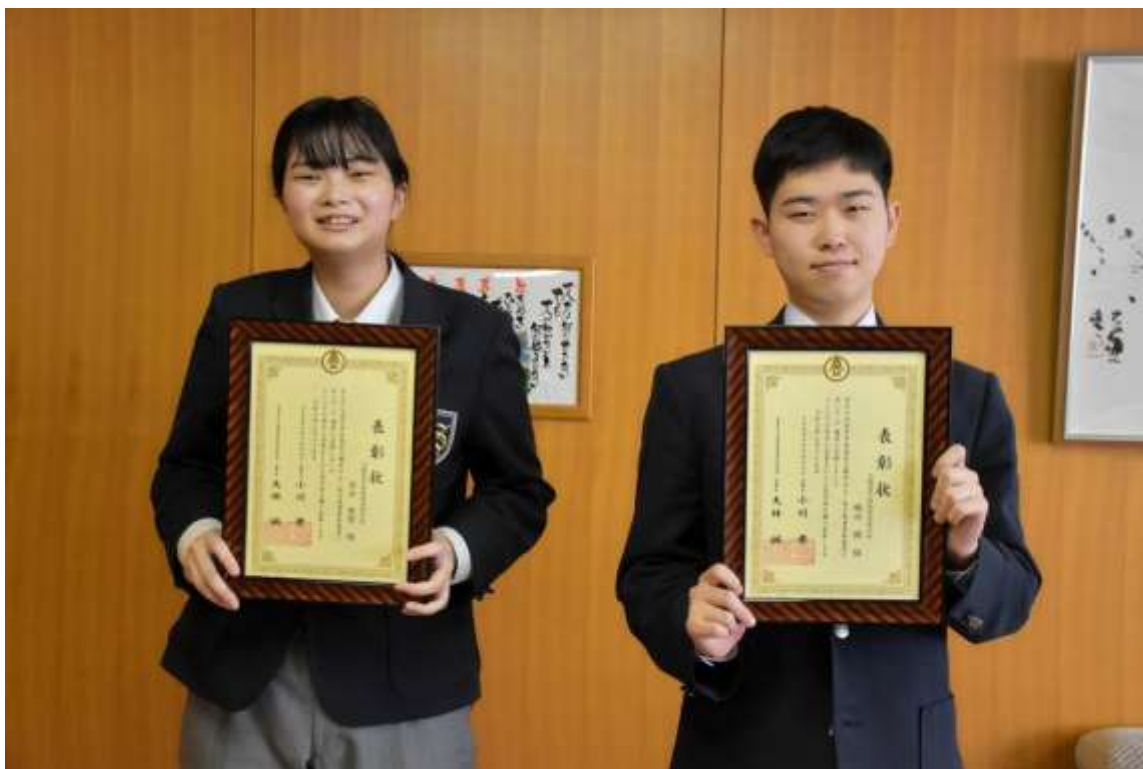
苫前町社会福祉協議会と連携して、除雪が困難な高齢者住宅3戸を訪問。生徒たちは高齢者が安心して生活できるよう雪山の雪を丁寧



道内各校
さまざまな
取組紹介

＜苫前＞苫前商高3年の2人、全商1級合格 西田春菜さん、嶋田開さん 電卓など3種目

＜北海道新聞 電子版＞2024 年 3 月 5 日 18:25



[表彰状を手に「苫前商高の3年間は楽しかった」と話す西田さん（左）と嶋田さん](#)

【苫前】苫前商高（佐藤恵一校長）の3年生2人が、全国商業高校協会（全商）が主催する検定試験で3種目で1級に合格した。2人は1日の卒業式で表彰状を受け取り、自信を胸に学びやを巣立った。

全商主催の検定は簿記、英語、商業経済など9種目。西田春菜さん（18）＝石狩市出身＝と嶋田開さん（18）＝札幌市出身＝の2人は、このうち電卓と商業経済、ビジネス文書の3種目で1級を取得した。

西田さんは「試験前に休日を返上して先生が教えてくれたおかげで合格できた」と喜ぶ。嶋田さんも「自信がない種目もあったけど合格できてうれしい」と笑みを見せる。

休日返上で指導に当たった担任の稲瑞希教諭は「2人とも目標を決めたらコツコツ取り組める。1級3種目取得は悲願でした」とほっとした表情を見せた。

北海商科大（札幌）に進学する西田さんは「もっと商業や経済の勉強を続けたい」と話し、札幌大に進む嶋田さんは「公務員になりたい」と将来を語る。

親元を離れ、苫前で3年間の寮生活を送った2人は、学校祭やまちのイベント、ボランティア活動など「苫前でしかできない経験を積めました」と話す。

＜苫前＞日商簿記検定3級に合格 苫前商業高 高橋祐人さん（17）、北田梨花子さん（17）

森麻子 会員限定記事

2024年3月27日 10:05

あとで読む



高橋祐人さん（左）、北田梨花子さん



苫前商業高2年の高橋祐人さん（17）と北田梨花子さん（17）が、日本商工会議所（日商）簿記検定3級を取得した。2人は「先生と放課後講習で勉強を重ねてきたおかげで合格できた」と喜んでいる。

高橋さんは今年2月の試験に合格。1年生の時に合格していた北田さんと合わせ、同級生15人のうち3級取得者は2人となった。指導した稲瑞希教諭は「2人とも目標を定めてコツコツ頑張るタイプ。よく頑張った」とねぎらった。

遠別出身の高橋さんも大阪市出身の北田さんも、ともに親元を離れて寮生活を送る。「周りにやる気のある友達がいて、刺激をもらえた」と話す2人。高橋さんは「大学に進んで経営を学びたい」、北田さんは「会計に関する仕事がしたい」と将来を思い描く。

北海道通信

文科大臣優秀教職員表彰受賞で

苫前商高と初山別小に光

川村留萌局長が表彰状



苫前商業高の佐藤校長
(中央)



初山別小の西條校長
(前列左)

【留萌発】苫前商業高校
(佐藤恵一校長)と初山別
村立初山別小学校(西條直

志校長)は5年度文部科学
大臣優秀教職員表彰(教職
員組織)を受け、14日に留
萌教育局の川村秀明局長か
らそれぞれ表彰状と盾を受
け取った。川村局長は両校
の受賞を祝し、今後の活躍
に期待した。

初山別小は、授業改善推
進チーム活用事業の指定校

として、2年度から授業改
善に関する組織的な取組を
実施。他校との情報交換を
積極的に行ったほか、全教
職員が研修を通じて資質・
能力向上を図ったことが大
きな評価につながった。

この日、留萌局の川村局
長が各校を訪問し、佐藤校
長と西條校長に表彰状と盾
を伝達。「生徒一人ひとりに
向き合ってきめ細かな指
導をしたことが評価され
た」などと述べ、両校の
今後の活躍に期待を寄せ
た。

佐藤校長は「今回の受賞
は教育局の指導や教職員の
頑張りによるもの」とした
上で「今後は賞に見合う取
組を続けたい」とさらなる
意欲を示した。

西條校長は「前年度まで
の校長をはじめ、教職員が
一丸となって授業改善を進
めた成果。これを励みに、
子どもたちのため、さらに
研修を深めたい」と受賞の
喜びをかみ締めた。

日商簿記3級に合格

苫前商高の高橋君、北田さん



【苫前】苫前商業高校(佐藤恵一校長)に通う2年生

2人の努力をたたえる

の高橋祐人君(17)と北田梨花子さん(17)の2人が、日本商工会議所(日商)主催の簿記検定で3級に合格した。公益財団法人全国商業高等学校協会(全商)主催検定の2級に相当する高難度を誇る検定試験の合格とあって、同校は2人の努力をたたえている。

同校は、生徒が進学や就職に有利なように資格取得を奨励。検定試験に備えて補習を行うなど指導に力を入れている。

日商簿記3級に合格した苫前商業高校の高橋君(左)と北田さん

町村版

北から南から

羽幌支局 電話 千078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-62-5225番
天塩支局 千098-3303 天塩町新栄通10丁目

簿記検定には、それぞれ主催団体別に、全国経理教育協会(全経)と全商、日商の3種類がある。そのうち日商簿記は全経、全商と比べて難易度が高く、日商の3級は、全商の2級相当の難易度の高さを誇る。

北田さんは1年生時の昨年2月、高橋君は今年2月にそれぞれ日商簿記3級を取得。高橋君の合格証書はまだ届いていないが、2人は喜びをかみしめている。

大阪府大阪市出身で「会計系の仕事に就きたい」と将来の夢を語る北田さん。遠別町出身で「目標を達成するのが楽しい」と笑顔を見せる高橋君。2人のいずれも、全商の簿記やビジネス計算などでもすでに1級

は「目標を決めたら、黙々と努力する2人。これからに期待したい」と話す。2人は、日商簿記の2級取得を目指し、11月の試験に挑戦する意欲を見せている。(雪田康一郎)

日刊留萌新聞 2024年3月31日(日)掲載

